



始



大正十三年度事業報告

新潟縣農事試驗場

1421
28/1



本報告ハ當場ニ於テ施行セ
ル大正十二年度冬作及大正十
三年度夏作試験成績並ニ其他
ノ事業ヲ記載シタルモノナリ

大正十四年七月

新潟縣農事試験場

大正
14.12.2
内交

14.21-28/1

大正十三年度事業報告目次

種 藝 部

水 稻 ノ 部	1
第一 豐凶参照試験	1
第二 品種對施肥量試験	1
第三 燐酸質肥料種類試験	1
第四 石灰施用期試験	2
第五 無肥料栽培試験	2
第六 苗代種類試験	2
第七 播種期播種量對移植期對施肥量試験	3
第八 苗ニ含有スル四要素調査	3
第九 波狀栽培試験	4
第一〇 整地法試験	4
第一一 陸稻ノ水田栽培實驗	4
第一二 直播法試験	5
第一三 新肥料ニ關スル試験	5
第一四 生育調査	5
第一五 品種比較本試験	5
第一六 品種比較豫備試験	6
第一七 御大典記念出品稻品種比較試験	6
第一八 純系淘汰試験	6
第一九 自然雜種ニ依ル品種育成試験	8
第二〇 人為性種ニ依ル品種育成試験	9
陸 稻 ノ 部	9
第一 覆土試験	9
第二 畦ノ構造ト土入試験	9
第三 促肥素ニ關スル試験	10
第四 品種比較試験	10
第五 純系淘汰試験	10
大 豆 ノ 部	11
第一 一株本數ト株間距離試験	11
第二 促肥素肥効試験	11
第三 品種比較試験	11
大 麥 ノ 部	11
第一 麥豐凶参照試験	11



第二	栽培法試驗	12
第三	品種ト施肥量トノ關係試驗	13
第四	追肥期試驗	14
第五	磷酸加里極量試驗	14
第六	生育調査	14
第七	品種比較本試驗	15
第八	品種比較像備試驗	15
第九	系統集團淘汰試驗	15
第一〇	純系淘汰試驗	15
第一一	人為雜種ニ依ル品種育成試驗	15
小麥ノ部		16
第一	品種對施肥量試驗	16
第二	品種比較試驗	17
第三	系統集團淘汰試驗	17
第四	人為性種ニ依ル品種育成試驗	17
農具ノ部		17
氣象觀測ノ部		20
糶貯藏試驗ノ部		21
委托試驗ノ部		21
第一	米麥品種適否試驗	21
第二	綠肥委托試驗	21
原種圃ノ部		23
第一	水稻原種圃	23
第二	陸稻原種圃	24
第三	麥原種圃	24
第四	大豆種子配付	24
採種圃ノ部		24
第一	米採種圃	27
第二	麥採種圃	28
第三	大豆・甘藷・馬鈴薯採種圃	28
園藝部		
果樹ノ部		31
第一	和梨品種試驗	31
第二	和梨肥料配合試驗	31
第三	和梨施肥期試驗	31
第四	和洋梨整枝剪定法試驗	31

第五	洋梨品種試驗	32
第六	米國種葡萄品種試驗	32
第七	歐洲種葡萄品種試驗	32
第八	歐洲及ヒ米國種葡萄免疫性砧木試驗	33
第九	甲州葡萄整枝法試驗	33
第一〇	甘柿品種試驗	33
第一一	澁柿品種試驗	34
第一二	桃品種試驗	34
第一三	梨品種試驗	34
第一四	蘋果品種試驗	35
第一五	蘋果整枝法試驗	35
第一六	櫻桃品種試驗	35
蔬菜ノ部		35
第一	促成栽培菜豆品種比較試驗	35
第二	白菜品種比較試驗	36
第三	甘藷耕種法試驗	36
第四	茄子品種比較試驗	37
第五	甘藷純系淘汰試驗	37
第六	茄子鹽素剩餘物效果試驗	38
第七	甘藷品種比較試驗	38
第八	馬鈴薯增收法試驗	39
第九	蘿蔔品種比較試驗	40
第一〇	西瓜移植法試驗	40
第一一	南瓜落葉防止法試驗	41
第一二	胡瓜品種比較試驗	42
第一三	促成栽培胡瓜品種比較試驗	42
第一四	甘藷品種貯藏試驗	43
第一五	馬鈴薯貯藏法試驗	44
第一六	西瓜品種比較試驗	44

農藝化學部

木框試驗ノ部		47
第一	天然供給量試驗(水稻)	47
第二	有機質肥料ノ地力ニ及ボス影響試驗(水稻)	47
土管試驗ノ部		48
第一	窒素質及磷酸質肥料ノ吸收率檢定試驗(水稻)	48
第二	窒素質對磷酸及窒素質加里ノ比率試驗(水稻)	48

圓筒試験ノ部.....48

第一 腐蝕ノ形態試験.....49

第二 腐蝕ノ肥効上鐵及礬土ノ影響試験.....49

第三 促肥素ノ効果試験.....49

第四 三要素試験(大麥).....49

第五 窒素質及腐發質肥料肥効試験(大麥).....49

第六 苦土ノ効果試験(大麥).....50

第七 促肥素ノ効果試験(大麥).....50

施肥標準調査ノ部.....50

第一 三要素試験.....50

第二 委託試験.....50

分析ノ部.....51

第一 依頼及場用分析.....51

第二 施肥標準調査用土壌分析.....51

病 虫 部

試験ノ部.....53

第一 稻熱病品種關係試験.....53

第二 藥劑ニ關スル試験.....53

第三 晒粉土壤消毒試験.....54

調査ノ部.....54

第一 梨粉介殼虫ニ關スル調査.....55

第二 梨主要害虫ニ關スル調査.....55

委託試験ノ部.....55

第一 梨害虫驅除試験.....55

第二 葡萄病害豫防試験.....56

第三 茶葉捲虫驅除試験.....56

第四 胡蘿蔔斑點病豫防試験.....57

第五 ユリミミズ驅除試験.....57

野鼠室扶斯菌配布ノ件.....57

農業技術員養成部

第一 農業技術員ノ養成.....59

庶 務 部

第一 出張ニ關スル事項.....61

第二 印刷物發刊ニ關スル事項.....61

第三 文書取扱件數.....61

第四 參觀人員.....61

佐 渡 分 場

水 田 ノ 部.....63

第一 豐凶考照試験.....63

第二 越前系統試験.....63

第三 品種豫備試験.....64

第四 練粕大豆粕肥効試験.....64

第五 耕勸ノ深淺對施肥量試験.....65

第六 品種對施肥量試験.....65

第七 春秋耕起比較試験.....66

第八 泥頁虫驅除試験.....67

第九 二毛作跡地影響試験.....68

第一〇 除草回數試験.....69

第一一 直播勞力試験.....69

第一二 水田二毛作大麥栽培試験.....70

第一三 水田二毛作紫雲英栽培試験.....70

畑 ノ 部.....70

第一 麥品種比較試験.....70

第二 麥播種法試験.....71

第三 麥播種期試験.....71

第四 大小豆品種比較試験.....71

第五 蕎麥品種比較試験.....72

第六 ザードウ井ツケン播種法試験.....73

第七 甘藷品種比較試験.....74

第八 馬鈴薯品種比較試験.....74

第九 里芋品種比較試験.....74

第一〇 茄子品種比較試験.....75

第一一 菜菔播種期試験.....75

第一二 秋播甘藷品種比較試験.....75

第一三 白菜直播移植比較試験.....76

第一四 芥菜直播移植比較試験.....76

第一五 長間菜直播移植比較試験.....76

種 藝 部

水 稻 之 部

第 一 豐 凶 考 照 試 驗 (繼續第三十年)

本試験ハ連年同一品種ヲ同一田地ニ當場一般耕種方法ニヨリ栽培シ其年ノ豐凶ヲ豫想スルト同時ニ監督官廳及主務省ニ報告スルノ基礎ヲ得ルニテ各期ニ其生育狀況ヲ調査シ其都度之ヲ報告發表セリ、今本年度收量ト平年ノ收量トヲ比較對照スレバ次ノ如ク平年ニ比シ早稻、中稻、晚稻三種平均ニ於テ一割三分強ノ減收ヲ見タリ

品 種 名	大 正 十 三 年		平 年		比 較 増 減	
	收 量	一升重量	收 量	一升重量	收 量	一升重量
早稻三種平均	2,283	369	2,730	366	△ 447	3
中稻三種平均	2,487	368	2,821	366	△ 334	2
晚稻三種平均	2,529	373	2,880	368	.351	5
平 均	2,433	370	2,810	367	△ .377	3

備考 △印ハ減

第 二 品 種 對 施 肥 量 試 驗 (繼續第三年)

本試験ハ當場ニ於テ試驗ノ結果有望ト認メタル品種ノ耐肥力ヲ試驗セントスルモノニシテ九品種ニ付試驗セリ、本年度ニ於ケル成績ニヨレバ新庄内、改良福山、石白一號、保村八號ハ三割増肥料區、新岩、改良愛國、陸羽二〇號、銀坊主、八張橋ハ六割増肥料區最多收量ヲ擧ゲタリ、尙ホ試驗ノ完結セル品種ノ累年成績(三ヶ年平均)ヲ擧グレバ次ノ如シ

品 種 名	三 割 減 肥 料	普 通 肥 料	三 割 増 肥 料	六 割 増 肥 料
新 岩	2,213	2,244	2,420	2,586
銀 坊 主	2,665	2,680	2,775	2,880

第 三 磷 酸 質 肥 料 種 類 試 驗 (繼續第四年)

本試験ハ磷酸質新肥料ニツキ其肥効ヲ知ラントスルニアリテ磷酸アルミナ、イフオース、強過磷酸石灰(標準)ノ三種ニツキ試驗シタルニ標準區(強過磷酸石灰)ノ收量最モ多ク、尙ホ累年ノ成績ヲ擧グレバ次ノ如シ

肥 料 名	大 正 十 年	大 正 十 一 年	大 正 十 二 年	大 正 十 三 年	平 均
強過磷酸石灰(標準)	2,515	2,758	2,143	2,801	2,554

燐酸アルミナ	2.574	2.576	2.169	2.660	2.495
イフオース	-	-	-	2.594	-

第四 石灰施用期試験 (繼續第三年)

本試験ハ石灰ヲ追肥トスル場合ニ於ケル適期ヲ知ラントスルニアリテ本年度ノ成績ハ七月上旬ニ施シタルモノ最多收量ヲ得タリ、尙ホ累年ノ成績ヲ擧グレバ次ノ如シ

施用期	大正十年	大正十一年	大正十三年	平均
元肥施用	石 -	石 2.354	石 3.109	石 2.732
六月廿八日施用	2.283	2.172	3.184	2.546
七月八日施用	2.158	2.249	3.293	2.567
七月十八日施用	2.328	2.189	2.846	2.454

第五 無肥料栽培試験 (繼續第十三年)

本試験ハ無肥料栽培ニ於ケル收量ヲ見ントスルニアリテ本年度ノ成績ハ二石一斗七升八合ノ收量ヲ得タリ尙ホ繼續施行セントス

第六 苗代種類試験 (繼續第四年)

本試験ハ陸苗ト水苗トノ優劣ヲ比較セントスルニアリテ改良愛國、改良美濃坊主、新愛國ノ三品種ヲ用ヒ六月一日植及六月十日植ノ二區ヲ設ケ一株四本、一坪四十八株植トシ都合十二區ニ付試験シタルニ本年度並ニ累年成績ヲ擧グレバ次ノ如シ

試験別	大正十一年	大正十二年	大正十三年	平均
改良愛國(水苗)	石 3.142	石 2.485	石 3.154	石 2.927
(六月一日植)陸苗	3.180	2.080	3.059	2.773
改良愛國(水苗)	3.224	1.944	3.247	2.838
(六月十日植)陸苗	2.861	2.300	3.302	2.821
改良美濃坊主(水苗)	3.202	2.127	2.529	2.619
(六月一日植)陸苗	2.124	2.294	2.606	2.675
改良美濃坊主(水苗)	3.155	1.973	2.742	2.99
(六月十日植)陸苗	3.316	2.062	2.816	2.731
新愛國(水苗)	-	2.228	2.940	2.584
(六月一日植)陸苗	-	2.194	3.058	2.626

新愛國(水苗)	-	1.881	2.973	2.427
(六月十日植)陸苗	-	1.978	2.807	2.392

第七 播種期播種量對移植期對施肥量試験

(繼續第三年)

本試験ハ本田施肥量ト播種期、播種量及移植期トノ四者ノ關係ヲ知ラントスルニアリテ供試品種ハ越中坊主一號ヲ以テ播種期ヲ四月十五日、四月廿五日、五月五日、一坪播種量ヲ五勺、一合、三合、移植期ヲ六月五日、六月十五日、六月廿五日ニ區別シ、本田施肥量ヲ三割増、五割増トシ都合五十四區ヲ設ケ試験シタル三ヶ年平均成績ハ次ノ如シ

試験別	三割増肥料			五割増肥料		
	六月五日	六月十五日	六月廿五日	六月五日	六月十五日	六月廿五日
四月十五日播	五勺	2.897	2.877	2.737	石 3.210	石 2.968
	一合	2.784	2.851	2.901	3.022	2.960
	三合	2.875	2.982	2.765	3.156	3.080
四月廿五日播	五勺	2.941	2.996	2.853	3.125	3.011
	一合	3.030	2.865	2.659	3.122	2.981
	三合	2.972	2.782	2.731	3.099	3.027
五月五日播	五勺	2.996	2.759	2.723	3.042	3.012
	一合	2.781	2.731	2.697	2.910	2.965
	三合	2.733	2.881	2.654	2.986	2.951

但シ六月廿五日植ハ二ヶ年平均ナリ

第八 苗ニ含有スル四要素調査 (繼續第三年)

本調査ハ苗代一坪ヨリ生産スル苗ニ含有スル窒素、磷酸、加里及石灰ノ四要素ヲ知り苗代施肥量ノ標準ヲ決定スル基礎ヲ得ントスルニアリテ播種後廿日目、卅日目、四十日目、五十日目ノ四回ニ分チ分析ヲ行ヒタルニ本年度及ビ前三ヶ年平均成績ハ次ノ如シ

區別	窒素	磷	加	里	石	灰
二十日目苗	本年	4.25	2.02	2.15		1.96
	三ヶ年平均	3.17	2.15	1.72		1.81
三十日目苗	本年	4.03	1.72	2.21		.80
	三ヶ年平均	3.47	2.01	2.03		.85
四十日目苗	本年	3.02	1.68	2.63		.76
	三ヶ年平均	2.98	1.75	2.38		.83

五十日目苗	本年	2.69	1.16	2.49	.70
	三ヶ年平均	2.16	1.24	2.23	.80

尙ホ右三ヶ年平均分析成績ニヨリ苗代一坪ニ於ケル苗ニ含有スル四要素量ヲ示セバ次ノ如シ

區 別	窒 素	磷 酸	加 里	石 灰
二十日目苗	1.26	.85	.79	.61
三十日目苗	3.92	2.16	2.68	.97
四十日目苗	6.99	3.73	5.42	1.93
五十日目苗	11.84	7.23	13.77	4.71

第九 波状栽培試験 (繼續第三年)

本試験ハ水田ヲ波状(畦形ノ緩ナルモノ)ニ整地シ其ノ波上ニ水稻ヲ移植シタル場合ニ收量ニ及ボス影響ヲ知ラントスルニアリテ、各區波ノ高サヲ二寸トシ畦幅ヲ二尺及二尺五寸ニ區別シ之レヲ株間五寸、同七寸ニ區別シ更ニ普通肥料及五割減肥料ニ區別シ別ニ標準區二區ヲ設ケ都合十區ニツキ試験シタルニ波状區ハ標準區ヨリ收量減シタルヲ以テ波状整地ノ効果ヲ認メザリキ

第一〇 整地法試験 (繼續第二年)

本試験ハ濕田ニ於ケル整地法トシテ(一)稻株ヲ上向ニ打チ起シ田小切リセルモノ、(二)稻株ヲ下向ニナシ田小切セズシテ均平整地セルモノ及ビ(三)稻株ヲ上向ニ打チ起シ踏ミ込ミタルモノ、三方法ニツキ試験シタルニ(一)ハ二石七六九(二)ハ二石七五九(三)ハ二石六六二ニシテ前年ノ成績ト同ジク稻株ヲ上向ニ打チ起シ田小切リセルモノ成績良好ナリ、尙ホ一ヶ年繼續シ勞力關係ヲモ詳細ニ調査セントス

第一一 陸稻ノ水田栽培實驗 (繼續第三年)

本實驗ハ陸稻ヲ水田ニ栽培シ常ニ淺水状態ニ置キ特ニ六月及八月中ハ灌水セズシテ旱魃状態ニナラシメタルニ次ノ如キ結果ヲ得タリ

品 種 名	大正十一年	大正十二年	大正十三年	三ヶ年平均
江曾島糯	1.324	1.697	1.053	1.358
賑 捷	1.667	2.470	1.155	1.764

第一二 直播法試験 (繼續第二年)

本試験ハ直播ヲナスニ麥ノ廣蒔ノ如ク播幅ヲ廣クシ條播セバ如何ナル結果ヲ得ルヤヲ試ミントスルニアリテ二尺幅三尺幅四尺幅ニ播種シタルニ標準(移植區)ニ比シ收量少ナカリキ、更ニ繼續試験セントス

第一三 新肥料ニ關スル試験 (繼續第二年)

本試験ハ最近新肥料(間接肥料ヲ含ム)ノ販賣セラル、ヲ以テ此等ノ肥効ヲ知ラントスルニアリテ本年度ニ於テハ促肥素、倍作印滿淹石灰ノ二種ニツキ之ヲ試験シ比較トシテ石灰反當三十貫施用區ヲ設ケテリ而シテ之レガ累年成績ヲ舉グレバ次ノ如シ

試 驗 別	大正十二年	大正十三年	平 均
石灰反當三〇貫加用區	1,999	2,707	2,353
促肥素一罐加用區	2,034	2,790	2,412
倍作印滿淹石灰反當三十貫加用區	2,266	2,901	2,584
標 準 區	2,286	2,773	2,530

第一四 生育調査

本調査ハ一株一本植トシ移植後十日毎ニ草丈及分蘖ノ狀況ヲ調査シ其年ノ有効分蘖期ヲ知ラントスルモノニシテ高田早稻(早稻)石白(中稻)美濃坊主(晚稻)ノ三種ヲ選定シ而シテ本年度ニ於テ最高分蘖莖數ハ高田早稻、石白、美濃坊主共七月廿日調査ノ當時ニシテ何レモ有効分蘖ナリキ

第一五 品種比較本試験 (繼續第十七年)

本試験ハ品種比較豫備試験ノ結果成績優良ニシテ本縣ニ於テ有望ト認メタル品種ニ就キ之レガ優劣ヲ詳細ニ比較シ本縣ニ必適ノ品種ヲ選定セントスルモノニシテ本年度ニ於テハ四十六品種ニ就キ比較ヲ行ヒタル結果成績良好ナリト認メタルモノ次ノ如シ

品 種 名	出穂期	成熟期	稈長	穗長	莖數	反當收量	最近平均收量	同上米質
125 畿内早稻十一號	8.31	10.9	3.51	6.1	20.1	3.024	3.006	上下
126 同 六十六號	8.27	10.11	3.44	5.8	23.2	2.913	3.059	下上
135 同 三十二號	9.2	10.15	3.42	5.6	19.9	3.160	3.132	中上
142 陸羽 四十二號	8.13	9.15	3.31	6.4	14.9	2.549	2.719	中上

148	畿内早稻十四號	9.1	10.12	3.33	6.0	15.2	2.961	3.108	中中
151	同七十號	8.20	10.5	3.36	6.9	18.1	2.690	2.971	中上
161	同三十三號	8.28	10.8	3.41	6.2	20.4	3.163	3.104	中上
163	同六十九號	8.21	10.1	3.37	6.6	19.2	2.776	2.948	中上
164	同百五十七號	8.19	9.30	3.47	7.0	20.0	2.752	2.805	中上
178	同十六號	8.28	10.15	3.22	6.4	22.3	3.104	(二ヶ年)2.953	中中
181	畿内第百六十號	8.31	10.13	3.70	6.7	18.1	2.950	(二ヶ年)2.970	上下
182	同百九十七號	8.30	10.5	3.64	6.4	17.9	3.044	(二ヶ年)2.738	中上
187	銀坊主撰	8.27	10.3	3.70	6.2	16.1	2.745	(二ヶ年)2.914	中上
	標準石白	8.28	9.29	3.76	6.7	23.1	2.906	2.830	上下
	同高田早稻	8.10	9.16	3.54	6.3	20.8	2.561	2.586	上下

第一六 品種比較豫備試験 (繼續第十四年)

本試験ハ各地方ヨリ其ノ土地ノ優良品種ヲ集メテ優劣ヲ比較調査シ前記品種比較本試験ニ供用ス可キ品種ヲ選定センガ爲メニ豫備的ニ試験ヲ行フモノニシテ本年度ニ於テハ三十五品種ニ就キ試験ヲ行ヒタル結果成績可良ニシテ更ニ品種比較本試験ニ供用スルノ價値アリト認メタルモノ次ノ如シ

品 種 名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	莖數	反當 支米	收量	米質
194 畿内早稻二十六號	8.10	9.13	3.33	6.1	24.0	2.569	中中	
早生二本三	8.16	9.19	3.63	6.6	16.0	2.460	中上	
橋田二本三	8.1	9.6	3.15	6.2	17.1	2.011	下中	
小林錦一號	8.5	9.7	3.20	6.2	20.4	2.538	中下	
同三號	8.5	9.7	3.23	6.5	20.5	2.426	中中	

第一七 御大典記念出品稻品種比較試験 (繼續第九年)

本試験ハ新潟縣農會ノ委托ヲ受ケ同會主催水稻品種改良獎勵規定ニ基ク出品稻ノ優劣ヲ比較調査スルモノニシテ本年度ニ於テハ六品種ニ就キ試験セル結果有望ト認メタルモノ、成績概要次ノ如シ

品 種 名	出穂期	成熟期	稈長	穂長	莖數	反當 支米	收量	最近三ヶ 年平均	同上 米質
中石白	8.27	10.3	4.17	6.7	21.3	2.956	2.775	中上	
選石	8.28	10.4	3.91	7.0	19.1	2.950	2.994	上下	
石白(標準)	8.27	10.1	4.03	6.4	25.4	3.143	2.983	上中	

第一八 純系淘汰試験 (繼續第十年)

本試験ハ在來品種ノ改良ヲ圖ランガ爲メニ行フモノニシテ大正四年度ニ

初メテ着手シ爾來品種ヲ更ヘテ繼續試験中ノモノニシテ本年度試験ヲ行ヒタルモノ、概況次ノ如シ

イ 大正九年度着手純系淘汰試験

本縣ニハ糯ノ優良品種少ナキヲ以テ之レガ改良ヲ爲サンガタメ大正九年度ヨリ山崎糯、御膳糯ノ二品種ニ就キ純系淘汰試験ヲ行ヒタルガ其ノ試験經過並ニ有望系統ノ本年度ニ於ケル成績次ノ如シ

品 種 名	取寄先 箇所數	初年目 栽培株 數	初年目 選抜株 數	第二年目 各系統 栽培株 數	第二年目 選抜株 系統數	第三年目 各系統 栽培株 數	第三年目 選抜株 系統數	第四年目 各系統 栽培株 數	第四年目 選抜株 系統數	各系統 栽培株 數	同上 栽培 區數
山崎糯	8	8,400	67	90	42	17	11	240	2		
御膳糯	11	10,530	69	90	41	18	13	240	2		

上表ノ如ク本年度(第五年目)山崎糯十一系統御膳糯十三系統ニ就キ是レガ最後ノ收量調査ヲ行ヒタル結果、山崎糯六十三號ノ成績ハ最モ優良ナリシニ依リ本縣獎勵原種トシテ大正十四年度ヨリ原種圃ニ移サントス尙本年度優良系統ノ成績ヲ擧グレバ次ノ如シ

品 種 名	系統番號	出穂期	成熟期	稈長	穂長	莖數	反當 支米	收量	三ヶ年 平均	同上 米質
山崎糯	在來種	8.16	9.22	4.16	7.1	13.0	2.030	2.199	中下	
同	63	8.17	9.23	4.33	7.1	13.3	2.251	2.207	中上	
御膳糯	在來種	8.24	10.1	4.55	7.6	14.4	2.478	2.340	中中	
同	4	8.25	10.2	4.59	8.0	13.2	2.523	2.497	中中	
同	6	8.25	10.2	4.59	6.7	18.3	2.546	2.384	中上	

ロ 大正十二年度着手純系淘汰試験

縣下ノ栽培反別多ク品質良好ニシテ且ツ近時釀造用米トシテ需用ヲ増加シツ、アル白玉種ニ就キ大正十二年度ヨリ之レガ純系淘汰試験ニ着手シタルガ本年度ハ前年選抜シタル百三十四系統ノ特性調査ヲ行ヒタル結果コノ中ヨリ有望ト認メタル六十六系統ヲ選抜シ來年度更ニ試験スルコト、セリ其ノ試験經過ハ次ノ如シ

種子取寄先 箇所數	初年目 栽培株 數	初年目 選抜株 數	第二年目 各系統 栽培株 數	第二年目 選抜株 系統數
7	8,400	134	120	66

ハ 大正十三年度着手純系淘汰試験

本試験ハハ張糯及ビ石白糯ノ兩品種ニ就キ純系淘汰ヲ行ハントスルモノニシテ本年度ハ第一年目トシテハ張糯ニアリテハ本種ノ廣ク栽培セラレツ

、アル南蒲原、古志、三島、西蒲原ノ四郡ニ亙リ六ヶ所ヨリ在來種ヲ集メ七千二百株ヲ一本植トナシ中百八十五株ヲ撰抜セリ、石臼糯ニ於テハ栽培反別多キ南魚沼、北魚沼、中魚沼、古志、三島、西蒲原、南蒲原、中蒲原ノ八郡九ヶ所ニ亙リ在來種ノ蒐集ヲナシ一萬八百株ヲ栽植シ中百七十八株ヲ撰抜シ大正十四年度ヨリ夫々系統栽培ヲ行ハントス

ニ 系統集團淘汰繼續試驗 (繼續第四年)

本縣水稻獎勵原種中改良愛國、米光、水野錦ハ未ダ純系ナラザル爲メ種々ノ形質稍齊一ヲ缺ク所アリシヲ以テ大正九年度ヨリ改良愛國ノ系統集團淘汰ニ着手シ次デ十年度ヨリハ米光、水野錦ノ二品種ニ就キテ淘汰ヲ行ヒタル結果大正十一年度ヲ以テ試驗ヲ完結シ優良形質ヲ具フル數系統ヲ混シテ原々種トナシタルガ此ノ際分離シタル系統中ニハ純系トシテ相當有望ナルモノ多カリシヲ以テ其ノ後引キ續キ各系統ノ生産能力ノ比較ヲ行ヘタリ其結果改良愛國ニアリテハ本年度ニ於テ試驗ヲ終了スルニ至リ系統番號三十四號ヲ選抜シテ大正十四年度ヨリ原種圃ニ栽培スルコト、セリ次ニ各品種中有望系統ニ就キ本年度成績ノ概要ヲ列記スレバ次ノ如シ

品種名	系統番號	出穂期	成熟期	稈長	穗長	莖數	反當支米收	三ヶ年平均均收量	同上米質
改良愛國	原種	月日 8.18	月日 9.29	尺 3.58	寸 6.6	本 21.3	石 2.937	石 2.968	中中
同	34	8.19	9.29	3.67	6.8	20.9	3.029	3.022	中中
米光	原種	8.21	2.29	3.83	7.0	12.7	2.835		
同	2	8.21	9.28	3.78	6.3	16.7	2.943		
同	6	8.21	9.28	3.74	6.8	15.1	2.925		
同	9	8.20	9.27	3.72	6.8	15.4	2.911		
水野錦	原種	8.16	9.23	3.73	6.4	16.8	2.720		
同	3	8.16	9.22	3.75	6.1	18.4	3.024		
同	8	8.15	9.23	3.67	6.2	18.3	2.834		

第一九 自然雜種ニ依ル品種育成試驗 (繼續第六年)

大正四年度着手純系淘汰試驗愛國中、大正五年度ニ於テ自然交雜ニ依リ分離シツ、アル雜種系統ヲ發見シ之レヲ雜種ノ第二代ト見做シ年々家族ヲ分離選抜シテ有望系統ヲ固定シ大正十二年度ヨリ收量調査ヲ行ヒ本年度ニアリテハ前年度ニ於テ栽培セル二十二系統中ヨリ更ニ選抜セル十一系統ニ就キ生産能力ノ比較ヲ行ヒタル結果三系統ヲ選抜シ更ニ十四年度ニ於テ最後ノ比較試驗ヲ行フコト、セリ

第二〇 人爲雜種ニ依ル品種育成試驗 (繼續第六年)

本縣ニ適スル優良品種ヲ育成センガ爲メ大正八年度以來毎年數組合セノ人工交配ヲ行ヒツ、アリシガ本年度ニ於テハ第五代ノモノ二組第二代ノモノ二組第一代ノモノ四組ニ付キ栽植試驗セリ而シテ大正八年度雜種セル(二本三、五ノ三六×愛國、五ノ三五)及(中生高宮五ノ三四×愛國五ノ三五)ノ二組合セハ本年度第五代目ニ當リ第一回ノ收量調査ヲ行ヒ十七系統ヲ選抜セリ更ニ又第四代目選抜ノ際未固定ナルモノ有望ナリシモノ七系統ヲ選ビ是レヨリ二百株ヲ撰擇シ再ビ第四代目ト同様ノ取扱ヒヲ行ヒ中十六系統ヲ選抜セリ依ツテ是ガ試驗經過並ニ優良系統ノ成績概要ヲ擧グレバ次ノ如シ

交配番號	品 種 名	第一代栽植株數	第二代栽植株數	第二代選抜株數	第三代栽植株數	第三代選抜家族數	第四代栽植株數	第四代選抜系統數	
								固定	未固定
1	二本三×愛國	2	2,800	232	150	21	438	34	1
2	中生高宮×愛國	10	14,000	247	150	15	388	7	6

系統番號	交配番號	出穂期	成熟期	稈長	穗長	莖數	反當支米收	栽培株數	栽培區數
二本三	親	月日 8.29	月日 10.6	尺 4.03	寸 6.2	本 21.4	石 2.676	240	1
中生高宮	同	8.17	9.22	4.03	7.3	13.4	2.498	240	1
愛國	同	8.19	9.28	3.85	7.2	15.7	2.821	240	1
185	I	8.17	9.21	3.58	6.0	18.5	2.834	240	1
354	同	8.17	9.22	3.66	6.9	16.9	2.877	240	1
356	同	8.15	9.19	3.58	6.3	20.7	4.230	240	1
420	同	8.18	9.27	3.13	7.0	29.4	3.224	240	1
592	II	8.17	9.22	3.77	6.9	16.7	2.915	240	1

陸 稻 ノ 部

第一 覆土試驗 (繼續第二年)

本試驗ハ播種ノ際ノ覆土ノ厚薄ガ陸稻ノ發芽並ニ生育ニ如何ナル影響アルヤヲ知ラントスルニアリテ覆土ノ厚サ三分、五分、一寸、二寸ノ四區ヲ設ケ試驗シタルニ前年ノ試驗ト同ジク發芽ハ一寸迄ハ大差ナク、收量ニアリテハ覆土ノ厚キモノ程減ジタリ、尙ホ繼續試驗セントス

第二 畦ノ構造ト土入試驗 (繼續第四年)

本試驗ハ陸稻栽培ニ際シ土入ノ効果ヲ見ントスルニアリテ無土入區、土

入一回區、土入二回區、土入二回食鹽加用區ノ四區ヲ更ニ低畦、平畦ノ二ツニ分チ都合八區ニツキ試験シタルニ早害其他ノタメ成績ハ正確ヲ缺クモ土入ノ回数一回ノモノハ、無土入ノモノヨリ幾分收量多ク、又二回土入ノモノハ無土入ノモノヨリ却テ收量ヲ減ジタリ

第三 促肥素ニ關スル試験 (新設)

本試験ハ促肥素ノ陸稻ニ對スル効果ヲ試ミントスルニアリテ供試品種ヲ江曾島糯トシ元肥ニ一鎗(九百六十匁)施用區一鎗半施用區追肥ニ一鎗施用區、一鎗半施用區及ビ無施用區ノ五區ヲ設ケ試験シタルニ成績區々ナリ更ニ繼續試験セントス

第四 品種比較試験 (繼續第四年)

本試験ハ各地方ヨリ品質優良收獲多量ナル品種ヲ蒐集シ其ノ優劣ヲ比較調査シ本縣ニ適スル品種ヲ選抜決定セントスルニアリ、本年度之ニ供用セル品種ハ十六品種ニシテ成績比較の良好ナリシモノ次ノ如シ

品 種 名	出穂期	成熟期	稈 長	穗 長	一尺間 莖 數	反當 收量 支米	米 質
7. 中 生 粳	8.22	10.8	3.19	7.6	31.0	1.538	中下
8. 藤 藏 糯	8.26	10.9	3.31	7.0	31.7	1.139	中上
10. 黑 鬚 選 出	8.30	10.9	3.37	7.0	28.3	1.258	中上
13. 在 來 三 六 號	8.12	9.19	3.02	6.8	42.2	1.511	中中
江曾島糯(標準)	8.12	9.20	3.02	6.7	35.0	1.315	中中

第五 純系淘汰試験 (繼續第八年)

本試験ハ品種比較試験ノ結果優良ト認メタル江曾島糯ニ就キ大正六年度ヨリ試験ニ着手シタルガ年々虫害或ハ早魃ノ爲メ正確ナル成績ヲ得ザリシガ本年度最後ノ收量調査ヲナシタル結果在來種ニ比シ良好ト認メタルモノノ成績概要次ノ如シ

系 統 番 號	出穂期	成熟期	稈 長	穗 長	一尺間 莖 數	反當 收量 支米	三ヶ年 平均收量	同 上 米 質
2.	8.10	9.19	2.57	6.3	50.0	1.514	1.910	中下
21.	8.15	9.24	3.20	7.3	42.3	1.857	2.046	中中
33.	8.23	9.29	3.25	7.0	30.8	1.299	1.705	上下
原 種	8.12	9.21	3.36	7.0	42.3	1.778	1.864	中中

大豆 之 部

第一 一株本數ト株間距離試験 (新設)

本試験ハ一株一本立トスル場合ニ於ケル適當ナル株間距離ヲ知ラントスルニアリテ供試品種ヲ刈羽瀧谷及赤莢ノ二品種トシ肥料ヲ普通肥料及五割増肥料區ノ二區別トナシ試験ヲナシタルニ株間ノ狭キモノ收量多シ、尙繼續試験セントス

第二 促肥素肥効試験 (新設)

本試験ハ促肥素ノ大豆ニ對スル肥効ヲ見ントスルニアリテ供試品種ヲ刈羽瀧谷トシ試験シタルニ成績區々タルヲ以テ更ニ繼續試験セントス

第三 品種比較試験 (繼續第十三年)

本試験ハ各地方ヨリ有望ト認メラル、品種ヲ蒐集シ詳細ニ其優劣ヲ比較シ本縣ニ必適スル品種ヲ選抜セントスルニアリ本年度ハ前年度ニ引續キ二十五品種ニ就キ試験セル結果成績比較の良好ナリシモノ次ノ如シ

品 種 名	開 花 期	成 熟 期	反當子實 收 量	最近三ヶ年 平均收量	同 上 品 質
28. 陸羽二十五號	7.31	10.12	1.855	1.705	中中
30. 同 二十七號	3.30	10.8	1.849	1.571	下上
34. 八 石	8.8	10.31	1.463	1.595	上中
39. 久 四 郎	8.6	10.20	1.930	1.775	中中
43. 八 里 牛	8.8	10.30	1.631	1.837	上下
刈羽瀧谷(標準)	7.22	9.9	1.368	1.249	中上

大 麥 之 部

第一 麥豐凶考照試験 (繼續第二十一年)

本試験ノ目的ハ其年ノ麥ノ豐凶ヲ豫想スルト同時ニ監督官廳及主務省ヘ報告スルノ基礎ヲ得ルニアリテ毎年同一耕種法ニヨリ大麥三種小麥三種ヲ栽培スルモノトス本年度ノ成績ニヨレバ次ノ如シ

種 類	大正十二年度		平 年		比 較 增 減	
	收 量	一升重量	收 量	一升重量	收 量	一升重量
大麥三種平均	1.979	277.2	2.046	273.4	-0.067	3.8
小麥同 上	1.123	368.0	1.183	349.2	0.060	18.8

備考 一、表中大麥三種平均ハ長岡・今朝白・六角シユバリー
 小麥三種平均ハ横澤・赤皮赤・マーチンスアンバー
 二、表中△印ハ減テ示ス

第二栽培法試験 (繼續第五年)

本試験ハ栽培法ノ如何ニヨリ麥ノ生育及收量ニ及ボス關係ヲ知ラントスルニアリテ供試品種ハ長岡トシ試験區別ハ低畦(溝ノ深サ七寸)平畦(平地ヨリ二分高シ)四寸巾二行播(平畦三尺)及廣播法(畦巾三尺五寸播巾一尺八寸)ノ四區ニ付試験シタルモノニシテ本年度ノ成績ハ廣播法ノ二石六四一ハ最も多ク四寸巾二行播ノ二石五八一平畦ノ二石五五二低畦ノ二石一四二ノ順位ヲ示セリ、尙五ケ年間ノ平均收量ヲ算出スレバ次ノ如シ

區別	大正八年	大正九年	大正十年	大正十一年	大正十二年	五ケ年平均收量
低畦	—	1.195	—	2.119	2.142	(3) 1.819
平畦	1.528	2.544	—	2.921	2.552	(4) 2.386
四寸二行播	1.275	2.716	—	3.007	2.581	(4) 2.395
廣播法	1.804	3.289	2.349	3.155	2.641	(5) 2.648

備考 一、表中收量ノ記入ナキハ寒害ノタメ收量ヲ見ル事能ハザリシナリ
 二、五ケ年平均收量ニ關中()内數字ハ試験年數ヲ示ス

以上五ケ年平均收量ニ依レバ廣播法最も收量多ク四寸二行播畦、低畦ノ順位ニシテ本縣ノ如キ冬季積雪多キ地方ニ於テハ低畦ハ寒害ニ罹ル事多ク又春季融雪ニ際シ雪融ケ水ノ流レ込ム状態ニテハ生育良好ナラズ從ツテ收量少シ故ニ寒害ノ抵抗ヲ強クシ生育ヲ良好ナサシムルニハ濕潤ノ地方ニ於テハ播床巾ヲ廣クシ稍高畦トナシ降雪前迄ニ莖葉、根部ノ發育ヲ圖リ分蘖セシムレバ其結果良好ナリト認ム

第三品種ト施肥量トノ關係試験 (繼續第五年)

本試験ハ施肥量ノ多少ト大麥ノ收量トノ關係ヲ知ラントスルニアリテ供試品種ハ長岡、純系長岡、今朝白、純系今朝白、飛驒、六角シユバリー、二本三、西蒲原郡産六角ノ八品種ヲ選定シ三割減肥料、普通肥料、三割増肥料、六割増肥料、十割増肥料、ノ區別ニ施肥量ヲ異ニシテ試験セリ今其成績ヲ見ルニ長岡ハ六割増肥料ノ二石一〇六第一位ニシテ十割増肥料、三割増肥料、普通肥料、三割減肥料ノ順位ナリ、純系長岡ハ六割増肥料ノ一石九三九第一位ニシテ十割増肥料、三割増肥料、普通肥料、三割減肥料ノ順

位ヲ示シ前記長岡ト同様ノ傾向ヲ有セリ、今朝白ハ六割増肥料ノ一石八三〇第一位ニシテ十割増肥料、三割増肥料、普通肥料、三割減肥料ノ順位ナリ、純系今朝白ハ十割増肥料ノ一石八七八第一位ニシテ六割増肥料、普通肥料三割減肥料、三割増肥料ノ順位ナリ飛驒ハ十割増肥料ノ一石三三七第一位ニシテ六割増肥料、三割増肥料、普通肥料、三割減肥料ノ順位ナリ、六角シユバリーハ六割増肥料ノ二石一〇三第一位ニシテ十割増肥料、三割増肥料普通肥料、三割減肥料ノ順位ナリ、二本三ハ十割増肥料ノ一石九三九第一位ニシテ三割増肥料、六割増肥料、普通肥料、三割減肥料ノ順位ナリ、西蒲原郡産六角ハ十割増肥料ノ二石二八〇第一位ニシテ六割増肥料、三割増肥料、普通肥料、三割減肥料ノ順位ナリ
 以上ノ成績ニ按ズルニ本年度ニ於テハ大麥各品種共六割増以上ノ施肥量ニ於テ收量多キヲ見タリ尙ホ繼續試験セントス

第四追肥期試験 (繼續第四年)

本試験ハ春季ニ於ケル追肥ノ時期ト收量トノ關係ヲ知ラントスルニアリテ供試品種ヲ長岡トス元肥ニ普通肥料ヲ施シ春季ノ追肥一八〇貫ヲ四月十日追肥四月廿日追肥、四月卅日追肥、四月十日、四月卅日二回追肥(施肥量ハ二等分シテ施肥)及無追肥ノ五區ニ付試験シタリ本年度ノ成績ニ依レバ四月十日、四月卅日ノ二回ニ追肥シタルモノ一石七六〇第一位ニシテ四月卅日追肥四月十日追肥、四月廿日追肥無追肥ノ順位ニシテ四ケ年ノ平均收量ヲ擧グレバ次ノ如シ

追肥期	大正十年收量	大正十一年收量	大正十二年收量	三ケ年平均收量
四月十日追肥	2.206	1.991	1.441	1.879
四月廿日追肥	2.042	2.233	1.376	1.884
四月卅日追肥	1.927	2.327	1.658	1.971
四月十日追肥 四月卅日追肥	2.074	2.193	1.760	2.009
無追肥	—	1.554	1.062	(2) 1.358

備考 一、繼續第四年ナルモ大正九年度ニ於テハ寒害ノタメ收量ヲ見ル事能ハザリキ
 二、表中三ケ年平均收量ニ關中()内ハ試験年數ヲ示ス

以上ノ成績ニ依レバ四月十日、四月卅日二回分施最も收量多ク四月卅日、追肥四月廿日追肥、四月十日追肥ノ順位ニシテ是レ其年ノ氣候ノ如何ニ依リテ一概ニ論ジ難キモ當地方ノ如キ積雪多ク四月上旬ニ於テ消雪ヲ見ル地方ニアリテハ消雪後春暖ニ伴ヒ生育旺盛ナラントスル時ニ於テ補肥スル事

最モ有効ナルモノニシテ當場附近ニ於テハ追肥一回ノ場合ハ四月廿日ヨリ四月卅日ノ間ハ最モ適當ナル期節ナリトス

第五 磷酸、加里極量試験 (繼續第四年)

本試験ハ大麥ニ對シ磷酸、加里ノ極量ヲ知ラントスルニアリテ供試品種ヲ長岡トシ磷酸及加里ヲ標準量(堆肥二〇〇、大豆粕六、人糞尿二三〇、過磷酸石灰四、葉灰二〇)中ニ含有スル磷酸加里ノ分量)ノ二倍量四倍量トナシ都合五區ヲ設ケ試験シタリ本年度ノ成績ヲ見ルニ標準量一石六九八ニ對シ加里四倍量一石七八一第一位ニシテ磷酸四倍量一石七四九加里二倍量一石六三四、磷酸二倍量一石五八八ノ順位ヲ得タリ尙繼續試験セントス

第六 生育調査 (繼續第四年)

本調査ハ麥ノ伸長分蘗ノ状態ヲ調査セントスルニアリテ大麥ニ於テハ長岡小麥ニ於テハ赤皮赤ノ二種ヲ選定シ發芽後出穂期迄五日乃至六日毎ニ五株宛ヲ調査シタルニ本年度ノ成績次ノ如シ

區別	調査初月	降雪日	前降雪日	當時出穂日	出穂期
	十月廿五日	十二月五日	四月四日	五月二日	五月廿日
草丈	長岡	7.1	11.1	5.2	20.5
	赤皮赤	6.6	9.1	1.9	16.5
莖數	長岡	2.2	12.6	14.6	10.6
	赤皮赤	2.2	15.0	17.0	11.6

備考 一、十月一日播種セルモノナリ
二、表中ノ數字ハ五株ノ平均ナリ

第七 品種比較本試験 (繼續第二十五年)

本試験ハ後記品種比較豫備試験ノ結果有望ト認メタルモノニ就キ詳細ニ其ノ優劣ヲ比較シ地方必適ノ良品種ヲ選定セントスルモノニシテ本年度ハ前年度ニ引續キ十八品種ニ就キ試験セル結果成績優良ナルモノ次ノ如シ

品種名	出穂期	成熟期	反當子實收量	最近三ヶ年平均	品質
68. 裸陸羽一號	5.20	6.19	1.135	1.304	中中
74. 二本三	5.26	6.26	2.038	1.728	中上
76. 六ヶ瀬見出	5.27	6.27	1.763	2.083	中上
87. 穗長	5.21	6.23	1.955	2.191	中中

93. 細麥二號	5.20	6.18	1.587	二ヶ年 1.849	中上
111. 會津三十三號	5.23	6.24	1.716	二ヶ年 1.909	中中
長岡(標準)	5.24	6.25	1.816	1.989	中中

第八 品種比較豫備試験 (繼續第十一年)

本試験ハ各地方ニ於ケル優良品種ヲ蒐集シ本縣ニ適スルヤ否ヤヲ試ミ有望ト認メタルモノハ之レヲ上記本試験ニ移サントスルモノニシテ本年度ハ十品種ニ就キ試験シタルモ雪害ニ弱ク本試験ニ移ス可キ見込ミノモノナカリキ

第九 系統集團淘汰試験 (繼續第二年)

本縣北蒲原郡京ヶ瀬村附近ニ廣ク栽培セララル大麥京ヶ瀬六角ハ品質收量共ニ優良ナル品種ナルヲ以テ之ガ改良ヲ爲ス可ク大正十一年ニ於テ原產地ヨリ四十二株ヲ撰拔シ來リ株別ニ栽培シテ特性其ノ他生育狀況ヲ調査セル結果二十五系統ヲ撰拔シ尙十二年度ニ於テハ各系統ヲ各二坪宛ヲ栽培シテ特性調査ヲ行ヒ本年度モ引續キ二十五系統ヲ各一坪宛トシテ栽培シ假收量調査ヲ行ヒタル結果相當有望ナルモノアリシヲ以テ本年度六系統ヲ撰擇シテ來年度ヨリ純系淘汰試験第三年目以後ト同一ノ方法ニ依リ收量調査ヲ行ハントス

第一〇 純系淘汰試験 (繼續第八年)

本縣平坦地方比較的積雪少キ所ニ於テ成績優良ナル大麥六角種ニ付キ前年度縣下三ヶ所ヨリ種子ヲ取寄セ千五百株栽植ノ結果九十九系統ヲ選拔シタリシガ本年度、各系統一坪宛ニ栽植シ有望系統ニ付キ假收量調査ヲ行ヒ内四十一系統ヲ選拔シ十三年度ヨリ之レガ收量調査ヲ行ハントス

第一一 人為雜種ニ依ル品種育成試験 (繼續第四年)

裸麥ノ雪害ニ強キモノ及ビ早熟短稈ニシテ二毛作ニ適スルモノヲ育成スルノ目的ヲ以テ人工交配ヲ施行シタル結果相當有望ナルモノ多キヲ以テ引續キ試験セントス其ノ主ナルモノニ付キ試験經過ヲ記スレバ次ノ如シ

交配品種名	交配年度	雜種世代	本年栽培系統數	同上選拔系統數
大麥長岡×裸北海道在來種	大正九年	第四代	15	15

同 上 相 反	同	同	5	5
裸陸羽一號×裸北海道在來種	大正十年	同 第 三 代	48	4
同 上 相 反	同	同	21	1
大 麥 長 岡 × 大 麥 關 取	大正十一年	第 二 代	2	66
外 = 第一代ノモノ六組合セ	大正十二年	第 一 代	—	—

而シテ大正九年度ニ於テ交配セル大麥長岡ト裸麥北海道在來種トノ組合セハ本年度(第四代)第一回ノ收量調査ヲ行ヒタルヲ以テ是ガ成績優異ナル系統ノ成績概要ヲ擧グレバ次ノ如シ

系 統 番 號	出 種 期	成 熟 期	反 當 子 實 收 量	品 質	其 他
125	5.20	6.22	1.842	中 中	皮
275	5.21	6.23	0.789	中 上	裸
307	5.21	6.23	1.037	中 下	裸
316	5.21	6.22	0.960	中 下	裸
317	5.21	6.23	0.871	中 下	裸
大 麥 長 岡	5.23	6.24	1.603	中 中	皮
裸 北 海 道	5.21	6.25	0.508	—	裸

小 麥 之 部

第 一 品 種 對 施 肥 量 試 驗 (繼續第三年)

本試驗ハ施肥量ノ多少ト小麥ノ收量トノ關係ヲ知ラントスルニアリテ供試品種ハ横澤、赤皮赤、マーチンスアンバーノ三品種ヲ選定シ施肥量ヲ三割減肥料、普通肥料、三割増肥料、六割増肥料、十割増肥料ノ區別ニ定メタリ今其成績ヲ視ルニ横澤ハ三割増肥料一石二六四第一位ニシテ十割増肥料、普通肥料、六割増肥料、三割減肥料ノ順位ナリ赤皮赤ハ六割増肥料一石四二六第一位ニシテ十割増肥料、三割増肥料、普通肥料、三割減肥料ノ順位ナリ、マーチンスアンバーハ三割増肥料一石〇八〇第一位ニシテ十割増肥料、六割増肥料、普通肥料、三割減肥料ノ順位ナリ、尙繼續試驗セントス

第 二 品 種 比 較 試 驗 (繼續第八年)

本試驗ハ各地方ヨリ取寄セタル品種ニ就キ詳細ニ其優劣ヲ比較シ本縣必適ノ良種ヲ選定セントスルモノニシテ本年度ハ十品種ニ就キ試験シタルモ雪害ノ關係上殆ド全滅シ只古志郡在來種甲一六伊賀筑後ドオーストラリヤ

ヤ、甲四〇白小麥ドオーストラリヤ、仙北ノ四品種比較的成績良好ナリキ

第 三 系 統 集 團 陶 汰 試 驗 (繼續第三年)

原種マーチンスアンバー並ニ赤皮赤ハ未ダ純系ニ非ザルヲ以テ前年度ト同様試験ヲ繼續セリ而シテ十三年度ヨリハマーチンスアンバー十系統、赤皮赤七系統ニ就キ純系淘汰試験第三年目以後ト同様收量調査ヲ行フコト、セリ

第 四 人 爲 雜 種 ニ ヨ ル 品 種 育 成 試 驗 (繼續第二年)

本試験ハ雪害ニ抵抗力強キ早熟短稈種ヲ育成スルノ目的ニテ大正十一年度ニ於テ赤皮赤ト細稈トヲ交配シ本年度是レガ第一代ヲ栽植セリ

農 具 之 部

一、農用動力機及動力用農具ノ普及獎勵ノタメ當場ニ備付ケノモノヲ次記ケ所ヘ貸付シタリ

種 類	貸 付 場 所	貸 付 期 間
セツト石油發動機	新潟縣販賣購買組合聯合會	自四月廿一日 七日間 至同 廿七日
尾上式大豆削器	同	同 同
畜力除草器	三島郡王寺川村農會	自六月廿六日 三日間 至同 廿八日
揚水機	同郡深才村本大島	自八月十五日 六日間 至同 二十日

二、穀物火力乾燥機其他農具實演會

(一)自七月廿三日至七月廿五日三日間當場ニ於テ穀物火力乾燥機、動力用粉摺機動力用脱穀機、製荳器ノ實演會ヲ開催シタリ

(二)十月十六日當場ニ於テ第二回穀物火力乾燥機動力用脱穀機實演會ヲ開催シタリ

三、穀物火力乾燥機試驗

(一)五月十三日ヨリ三日間大正十二年度産粉ニ付試験ヲ行ヒタルニ次ノ成績ヲ得タリ

一、本機ニ依ツテ乾燥シタル粉ハ乾燥セザリシモノニ比シ、乾燥ニ依リテ比重ヲ増加スルノミナラズ、粉ハ乾燥塔内ヲ反覆運動スル爲芒及粉殻表面ノ細毛ヲ悉ク取去ラル、ヲ以テ一升重量ニ於テ著シキ増加ヲ來シ、從ツテ全容量ニ於テ約一割ノ減少ヲナセリ、之一

見其ノ減耗ノ大ナルガ如クナルモ粉摺歩合ニ於テ五厘乃至七厘ヲ高メ結局玄米容量ニ於テハ大ナル減耗ナシ。玄米ノ品位ハ乾燥前不合格ナリシガ乾燥後四等ニ向上セシムルヲ得タリ。

二、尙乾燥玄米ト未乾燥玄米トノ精白上ノ差違ヲ調査シタルニ乾燥シタルモノハ白米ノ一升重量遙ニ大ニシテ精白歩合モ未乾燥ノモノニ比シテ勝レルノ結果ヲ得タリ。

三、以上ハ僅カニ今春來前年産粉ニ就キテ數回行ヒタル試験成績ノ概要ナルガ、本機ヲ最モ有効ニ使用シ得ベキ秋期收穫粉ニ就キテハ未ダ試験成績ヲ得ザルモ、假ニ當場設置ノ乾燥機即チ十一石入ノ塔二基ヲ設備シタル場合ニ於テ、秋冬期七十日間翌年春夏ノ間ニ三十日間作業スルモノトシテ計算スル時ハ固定資本ノ償却費、利子、保険料、修繕費、地代及人夫賃、消耗品費等一切ヲ加算シテ粉一石當僅カニ參拾五錢内外ニシテ之ヲ架干ニ依ル場合ノ粉一石當乾燥費八拾七錢餘ニ比スレバ遙ニ安價ナルモノナリ。更ニ又乾燥塔十石入ノモノ四基設置スル場合ハ能率ヲ増シ得ルヲ以テ一層安價ニ乾燥スルコトヲ得。

(二)七月五日ヨリ三日間刈取生麥ニ付試験シタルニ次ノ成績ヲ得タリ
乾燥ニ供シタル大麥「二本三種」ハ刈取後直ニ調製シタルモノニシテ大麥ハ米ノ如ク胴割ヲ生ズル憂ナキヲ以テ最初熱風ノ溫度ヲ九十五度トシ麥ノ乾燥スルト共ニ徐々ニ溫度ヲ八十度迄低下セシメ乾燥前ノ水分二五、四%ノモノヲ五時間半ヲ以テ水分一四、二%迄ニ乾燥シタリ、蓋シ一般ニ乾燥良好ナル大麥ノ水分ハ十五%以内ナルヲ以テ此ノ程度ノ乾燥ヲ爲サントシタルナリ。

一、乾燥中ニ於ケル麥水分減少ノ狀況次ノ如シ

觀測時間	乾燥塔内ノ麥ノ溫度(攝氏)	乾燥塔ヨリ生ズル排氣ノ溫度(%)	麥水分(%)
午前 8.00	30.5	85	25.4
8.30	34.4		25.0
9.00	39.6	96	23.6
9.30	41.3		23.4
10.00	41.7	100	21.2
10.30	42.0		21.0
11.00	43.8	100	19.2

	11.30	44.3		18.6
	12.00	42.6	69	17.9
午後	0.30	43.6		16.4
	1.00	43.0	58	15.7
	1.30	43.6		14.2

二、乾燥前後ニ於テ容量、重量、容積量、色澤等ガ如何ニ變化スルカラ調査シタルニ其ノ成績次ノ如シ。

項目	總重量	總容量	一升重量	色澤
乾燥前	281.112	11.1243	252.7	乾燥セルモノニ比シ 暗黄色強ク光澤アリ
乾燥後	230.790	7.8286	294.8	
乾燥前後ノ差	(-) 50.322	(-) 3.2957	(+) 42.1	
乾燥前後ノ増減歩合	(-) 1.79	(-) 2.96	(+) 1.67	

(三)十一月十一日ヨリ四日間秋刈取生粉ニ付試験シタルニ次ノ成績ヲ得タリ

一、稍早刈シタル爲未熟粉ヲ含ムコト多キ生粉又ハ出來過地ノ粉ハ火力乾燥ニ依ル時ハ青米及胴割米ヲ多ク生ジ且ツ光澤ヲ損スル場合多キモノ、如シ然レドモ青米多キハ粉ノ乾燥良好トナル爲普通乾燥ノ場合ニハ脱稈セラレザル者迄脱稈セラル、ニ依ルモノナルベシ尙稻架乾燥ノ場合ノ如ク後熟作用ノ行ハレザル事モ亦青米多キ一因タルベシ又胴割米多キハ前記ノ如キ粉ハ其玄米組織粗ニシテ水分多キ事ニ關係アルモノナラン

二、雨天生粉ハ十五時間以上ヲ以テ乾燥スルヲ安全トスルモノ、如ク晴天生粉ト雖モ之ト大差ナカルベシ

三、半乾燥粉ハ九時間以内ヲ以テ充分乾燥シ得ベク本機ヲ以テ乾燥スルニハ此ノ乾燥程度ノ粉ヲ最モ便トス

四、雨天生粉ハ乾燥後却ツテ一升重量ヲ減ジタルガ其他ノ場合ニ於テハ何レモ乾燥後ハ一四乃至一六匁餘ノ重量増加ヲ見タリ

五、雨天生粉ハ乾燥ニ依リ容量ヨリモ重量ニ於テ減耗幾分多ク大体ニ於テ一五%ノ乾燥減ヲ示シタルモ其他ノ粉ニアリテハ何レモ容積ノ減耗ハ遙ニ重量ノ減耗ヨリモ多シ而シテ晴天生粉ハ容積ニ於テ約二三%重量ニ於テ一九%ノ乾燥減ヲ示シタリ

半乾燥ノ粉ニアリテハ容積ニ於テ約八%重量ニ於テ約二%ノ乾燥

減ヲ見タルニ過ギズ

四、畜力除草器

巾五間長サ三六間反別六畝歩ノ本場水田ニ牛ノ通路ハ一尺二寸然ラザル處ハ九寸ノ株間ニ移植シ七月上旬畜力除草機ヲ使用シタルニ田地深過ギ牛ノ歩行自由ナラズ牛及使用者モ不熟練ノ爲メニ結果良好ナラザリシガ下記組合ヘ貸付シタル其成績ヲ擧グレバ次ノ如シ

場所 三島郡王寺川村地内

功 程 一時間約三反歩

使用人夫 三人 一人鼻取 一人操縦者 一人使用跡地直シ

除草跡ノ精粗 概シテ精

稻ノ倒伏状況 往復ノ中間ニハ三〇間ノ内約三株倒伏

一廻轉ニ三四株位ノ手直シヲ要スベキ株ヲ生ズ

牛 朝鮮牛

概評 概シテ良好ナルモ乾田ニ於テハ齒ノ構造ヤ、廣ク齒先圓キニ失シ土壤多ク掛カリ反轉不十分ナル憾アリ

氣象觀測之部

毎日午前十時ニ於テ乾球、濕球、最高氣溫、最低氣溫、降水量、蒸發量、雪、風向、風力、天氣、日照時間等ノ氣象要素ニツキ觀測シタルニ各要素ノ最高及最低ヲ示セバ次ノ如シ

調査種類	一 年 中				備 考
	最低	月 日	最高	月 日	
乾 球	(-) 2.6	2.13	34.1	7.25	
濕 球	(-) 3.0	2.13	32.2	8.21	
最高氣溫	(-) 0.4	2.23	35.9	7.16	
最低氣溫	(-) 14.4	2.26	25.1	8. 7	
降水量	—	—	110.1	8.22	
蒸發量	—	—	10.9	9.10	
根 雪	—	—	1.1	1. 1	初雪12月1日 消雪4月3日 一日中最モ多ク降りタル積雪1.640 2月25日
風 向	—	—	—	—	一ケ年中最モ多キ風向南西
風 力	—	—	4	5.11	
日照時間	—	—	11.9	7. 1	

粃貯藏試驗之部

農商務省ノ委托ニ依リ補助金ヲ受ケテ大正九年度ヨリ着手セル今摺米改良試驗及大正十一年度ヨリ着手セル粃セイロ貯藏試驗ハ前年ニ引續キ本年度モ試驗シタルガ其ノ成績ハ試驗完了後別ニ報告セントス

委 托 試 驗 之 部

第 一 米 麥 品 種 適 否 試 驗 (繼續第三年)

本縣ハ他縣ニ比シ面積廣大ニシテ地方的ニ氣候風土ヲ異ニスルコト大ナルヲ以テ地方毎ニ品種ノ適否ヲ異ニスルコト著シク本場育成ノ新品種及ビ品種比較試驗ノ結果優良ト認メタルモノ、地方的適否ヲ知ルト共ニ獎勵原種及優良品種ヲ一般當業者ヘ紹介スルノ目的ヲ以テ大正十一年度ヨリ水稻ニアリテハ縣下二十三ヶ所麥ニアリテハ各郡一ヶ所宛ノ試驗地ヲ設ケ試驗ハ各郡農會ニ委托シ一試驗地ノ面積ハ米麥共ニ一反歩宛トシ委托料稻七十圓麥六十圓ヲ交付シテ試驗スルコト、シタルガ本年度モ引續キ試驗シ大体ノ結論ヲ得タルモ來年度ヨリハ試驗地ノ數ヲ減ジ多少品種ヲ變更シテ一層詳細ニ試驗ヲ行フコト、セリ試驗成績ハ試驗完結後別ニ報告セントス

第 二 綠 肥 委 托 試 驗

(1) 綠 肥 試 驗 (繼續第三年)

西蒲原郡農會農事試驗場委托施行セル狀況次ノ如シ

(イ) 試 驗 地

位 置	面 積
西蒲原郡農會農事試驗場	田畑地 五反八畝歩
鏡 郷 村 及 峰 岡 村	田畦地 九三畝歩
計	一 町 歩

(ロ) 試 驗 項 目

紫雲英ノ部

產地別品種比較試驗(田地)

菌核豫防法試驗(同)

- 三要素試験(田地)
- 播種量試験(同)
- 採種試験(田地及畑地)
- 灌水法試験(田地)
 - ザードウキツケンノ部
- 播種期對播種量試験(畑地)
- 採種法試験(同)
- 畦畔利用試験(畦畔)
- 種子產地別試験(畑地)
- 肥料試験(ポット)
 - 其他ノ部
- 綠肥比較試験(田地及畑地)
- 苜蓿採種法試験(畑地)

(2) 新綠肥適否試験 (繼續第二年)

主トシテ「ザードウキツケン」ノ適否ヲ知ラントスルモノニシテ要領次ノ如シ

(イ) 依 托 地

北、中、南、西蒲原、三島、刈羽、中、西頸城、岩船、中魚
以上十ヶ郡農會

(ロ) 試 驗 地(一ヶ所ニ付)

田地 四畝歩 畑地 四畝歩 畦畔 三畝歩
合計 一反一畝歩

(ハ) 試 驗 項 目

- ザートウキツケン播種期試験(各郡)
- ザートウキツケン紫雲英、苜蓿採種試験(同) } 畑地
- ザートウキツケン畦畔利用試験(同)
- 綠肥比較試験(四ヶ郡)
- 紫雲英灌水試験(同) } 田地
- 同 菌核豫防法試験(同)

以上ハ前年ノ狀況ニ鑑ミ從來ノ設計及位置ニ變更ヲ加ヘタルモノニシテ成績ハ更ニ繼續施行ノ上報告セントス

原 種 圃 之 部

第 一 水 稻 原 種 圃

水稻原種圃ハ古志郡栖吉村大字成願寺ニ設置シ當場ノ直營トス、其反別二町歩ニシテ本年度ニ作付シタル品種別反別、原種生産數量及配付數量ハ次ノ如シ

品 種 名	作 付 反 別	生 産 數 量	配 付 數 量
越 前 一 號	79	.400	.290
龜ノ尾一號	495	4.410	3.477
新 高	67	.700	.465
陸羽二〇號	90	.500	.413
水 野 錦	451	3.970	3.189
改 真 愛 國	952	11.020	8.331
新 大 場	459	3.410	2.662
早 坊 主 一 號	208	1.880	1.326
新 一 本	61	.660	.578
中 生 高 宮 一 號	53	.400	.259
越 中 坊 主 一 號	52	.500	.314
米 光	777	7.620	6.054
新 愛 國	224	1.810	1.520
白 玉	72	.510	.379
石 白 一 號	100	1.020	.851
石 白 二 號	83	.700	.394
新 石 白	463	4.300	3.328
新 二 本	84	.700	.562
銀 坊 主	124	1.370	1.012
計	4,894	45,880	35,404

備考 合計反別ニ於テ二町歩ニ違セザルハ苗代・畦畔其他ヲ除キタルニヨル。又原種生産數量ハ鹽水選セザル數量ニシテ配付數量ハ鹽水選済ミノモノトス

第 二 陸 稻 原 種 圃

前年度ニ繼續シ北魚沼郡堀之内村及城川村ニ二反歩委託設置シタリ、而シテ其品種別反別及生産數量並ニ配付數量次ノ如シ

品 種 名	作 付 反 別	生 産 数 量	配 付 数 量
江 曾 島 糯	1.0	1,000	.936
暇 捷	1.0	1,000	.948
合 計	2.0	2,000	1,884

第三 麥 原 種 圃

麥原種圃本年度ノ作付面積ハ五反歩ニシテ之ヨリ生産セル品種別數量及配付數量次ノ如シ

品 種 名	作 付 反 別	生 産 数 量	配 付 数 量
大 長 岡	1.1	.930	.791
今 朝 白	.4	.400	.311
麥 六 角 シ ャ ヲ リ	.8	.900	.819
飛 驒	.7	.625	.574
小 横 澤	.4	.350	.299
赤 皮 赤	1.0	.750	.711
麥 マーチンスアソパー	.3	.180	.157
計	4.7	4,135	3,662

第四 種 子 配 付

原種圃産以外ノ生産種子ニシテ本年度配付セルモノ、品種別數量次ノ如シ

品 種 名	生 産 数 量	配 付 数 量
大 豆 水 潜	.170	.143
同 生 娘	.100	.90
同 刈 羽 瀧 谷	.480	.312
同 岩 船 瀧 谷	.340	.304
同 赤 茨	.620	.525
計	1,710	1,379

採 種 圃 之 部

第一 米 採 種 圃

一、指導監督ニ關スル事項

(イ)係員派遣、郡市農會直營採種圃並ニ部落採種組合採種圃指導監督ノ爲メ係員ヲ派遣セルコト次ノ如シ

1. 苗代、五月二日ヨリ卅日迄ノ間ニ於テ卅三日間
 2. 異變種除去、八月十九日ヨリ九月廿二日迄ノ間ニ於テ五十七日間
 3. 種籽検査、十一月十八日ヨリ一月廿四日迄ノ間ニ於テ廿六日間
- 又部落採種組合關係者協議會ニ於テ採種圃耕種方法ニ付指示及注意ヲナシタルガ係員派遣日數次ノ如シ

四月九日ヨリ五月五日迄ノ間ニ於テ十七日間

三月四日ヨリ廿三日迄ノ間ニ於テ十七日間

(ロ)設計書、直營採種圃ニアリテハ年度始ニ於テ設計書ヲ取纏メ指導監督ノ資料トセリ(以下各採種圃同様ニ付本項省略)

(ハ)採種圃一覽表、直營採種圃ニアリテハ指導監督ニ便シ併テ今後ノ參考ニ資センガ爲メ一覽表ヲ調製シ經營ノ狀況並ニ實施狀況ヲ記セシメタリ

二、其他事項

(イ)四月開催郡市農業技術員會議ニ於テ直營採種圃並ニ部落採種圃ニ付指示及注意ヲナセリ

(ロ)産米改良ノ講演會其他機會アル毎ニ優良品種ノ普及ニ付講演ヲ行ヒタリ

(ハ)採種圃面積次ノ如シ

郡市農會直營米採種圃品種別郡市反別並ニ個可數

品 種 名	越 前	龜 尾	新 高	陸 羽 二 〇 號	水 野 錦	改 良 愛 國	新 大 場	早 坊 主	新 本	中 生 高 宮	越 中 坊 主	米 愛 國	白 玉	石 白 一 號	石 白 二 號	新 石 白	新 二 木	銀 坊 主	個 所 數	
	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	反	
北蒲原	—	—	—	—	20.0	12.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	32.0	2
中蒲原	—	—	—	—	4.0	3.5	1.5	—	2.0	—	—	2.0	2.0	—	—	2.0	2.0	—	19.0	1
西蒲原	—	3.5	1.5	—	2.0	3.0	—	3.5	—	—	—	1.0	—	—	—	.5	1.0	—	16.0	1
南蒲原	—	—	—	—	3.0	4.0	1.0	—	—	—	—	5.0	2.0	—	—	2.0	—	—	17.0	1
東蒲原	—	—	—	—	—	2.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2.0	1
三 島	—	2.0	—	—	1.0	1.0	1.0	1.0	—	—	—	1.0	—	—	—	—	—	—	8.0	1
古 志	—	1.0	—	—	—	4.0	—	1.0	—	—	—	2.0	—	—	—	3.0	—	—	11.0	1
北魚沼	—	—	—	—	1.0	3.0	—	—	—	—	—	.5	—	—	—	.5	—	—	5.0	1

(ロ)採種圃一覽表 經營並ニ管理ノ狀況ヲ明ニシ今後ノ參考ニ資スル爲
メ一覽表ヲ調製記入セシメタリ

(ハ)指導監督セル面積次ノ如シ

大正十三年度麥採種圃品種別反別表

郡名	品種名	長	闊	飛	驛	今朝白		計	横	澤	赤皮赤	マーチンズア ンバー	計	合計
						反	反							
北	蒲原	—	—	—	—	反3.0	反4.0	反7.0	—	—	—	—	反3.0	反10.0
中	蒲原	1.0	—	—	—	—	1.0	3.0	2.0	—	—	—	2.0	5.0
西	蒲原	1.0	—	—	—	—	1.0	3.0	—	1.0	—	—	1.0	6.0
南	蒲原	1.0	—	—	—	—	1.0	2.0	—	1.0	—	—	1.0	3.0
三	島	3.0	—	—	—	—	—	3.0	2.0	—	—	—	2.0	5.0
刈	羽	—	—	—	—	—	1.0	1.0	.5	—	—	—	.5	1.5
南	魚沼	—	—	—	—	—	—	—	—	4.0	—	—	4.0	4.0
中	魚沼	—	—	—	—	—	1.0	1.0	—	2.0	—	—	2.0	3.0
東	頸城	.5	—	—	—	—	—	.5	—	.5	—	—	.5	1.0
中	頸城	1.0	—	—	—	—	2.0	3.0	—	5.0	—	—	5.0	8.0
西	頸城	3.1	—	—	—	—	—	3.1	—	.5	—	—	.5	3.6
岩	船	3.0	2.0	1.0	—	—	6.0	—	1.5	1.0	—	—	4.0	10.0
佐	渡	3.0	3.0	—	—	—	6.0	—	1.5	1.5	—	—	3.0	9.0
計		16.6	10.0	3.0	11.0	—	40.6	4.5	21.5	2.5	—	—	28.5	69.1

第三 大豆、甘藷、馬鈴薯採種圃

一、指導監督ニ關スル事項

(イ)係員派遣 異變種除去指導監督其他ノ爲メ左記ノ通り係員ヲ派遣セ
リ

七月七日ヨリ八月一日迄ノ間ニ於テ卅四日間

(ロ)指導監督セル面積次ノ如シ

大正十三年度大豆、甘藷、馬鈴薯採種圃反別表

郡市名	品種名	大豆採種圃					甘藷同上		馬鈴薯同上		計	
		水滸	生娘	刈羽 瀧谷	岩船 瀧谷	赤莢	計	紅赤	金時	計		
北	蒲原	—	—	反4.0	反4.0	—	反8.0	反1.0	—	反3.0	反2.0	反5.0
中	蒲原	—	—	—	—	—	—	2.0	—	2.0	—	2.0
西	蒲原	1.0	2.0	2.0	—	—	5.0	2.0	—	2.0	1.0	1.0
南	蒲原	1.0	1.0	1.0	1.0	—	4.0	—	—	—	—	—

東	蒲原	—	—	—	1.0	1.0	2.0	3.0	1.0	4.0	.5	—	.5
三	島志	1.0	1.0	1.0	—	—	3.0	.5	.5	1.0	.5	.5	1.0
古	魚沼	3.0	1.0	—	—	—	4.0	2.0	—	2.0	2.0	—	2.0
北	魚沼	—	—	—	1.0	1.0	2.0	4.0	—	4.0	1.0	—	1.0
南	魚沼	—	—	—	—	5.0	5.0	2.0	—	2.0	1.0	—	1.0
中	魚沼	—	—	—	4.0	6.0	10.0	—	—	—	—	—	—
刈	羽	1.0	—	1.0	—	1.0	3.0	—	—	—	1.0	—	1.0
東	頸城	1.5	—	1.0	1.5	7.5	11.5	4.0	—	4.0	2.0	1.0	3.0
中	頸城	1.0	1.0	—	1.0	2.0	5.0	3.0	—	3.0	2.0	—	2.0
西	頸城	—	—	1.0	1.0	1.0	3.0	—	—	—	1.0	1.0	2.0
岩	船	—	—	2.0	2.0	—	4.0	2.0	2.0	4.0	1.0	—	1.0
佐	渡	—	2.0	—	—	3.0	5.0	.5	1.0	1.5	.5	—	.5
新	潟	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
長	岡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
高	田	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計		9.5	8.0	13.0	16.5	27.5	74.5	26.0	4.5	30.5	18.5	4.5	23.0

園 藝 部

果 樹 之 部

苗木ハ大正十年度農林省園藝試驗場ヨリ配付ヲ受ケタル穂及ビ各原產地ヨリ取寄セタル穂ヲ接木シ當場ニ於テ養成シタルモノニシテ大正十一年三月八日ヨリ苗木植付ニ着手シ三月卅日迄ニ全部新設園藝部圃場ニ植付ヲ終レリ本年度ノ果樹苗木ノ生育狀況ヲ述レバ和洋梨、葡萄、蘋果、桃、櫻桃ハ生育概シテ良好ニシテ桃ハ品種ニヨリテ多少ノ結果ヲ見、葡萄ハ各品種共相當ノ結果ヲ得タリ

明年度ニ於テハ和梨、栗、蘋果、櫻桃等相當ノ結實ヲ見得ル豫定ナリ
今各試驗區ニ於ケル成績ノ概要ヲ記載スレバ次ノ如シ

第 一 和梨品種試驗

全國各地ニ於テ著名ナル和梨並ニ支那梨廿二種ヲ蒐集シ其ノ特性ヲ明カニシテ品種選擇ノ便ニ供セントス

供 試 品 種

市原早生、赤穂、早生幸藏、幸藏、長十郎、太白、明月、廿世紀、今村夏、世界一、早生赤、泰平、今村秋、晚三吉、丸形晚三吉、萊陽慈梨、北海、巾着、獨逸、早生長十郎、鴨梨、博多青

第 二 和梨肥料配合試驗

肥料要素ノ配合ガ梨樹ノ枝幹、果實並ニ病虫ノ被害ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ試驗研究シ其ノ根本的解決ヲ遂ゲントスルモノニシテ供試品種ハ早生赤及ビ廿世紀ノ二種トナス

第 三 和梨施肥期試驗

和梨肥料施用期及ビ其ノ回数ガ果實ノ發育ニ及ボス影響ヲ試驗研究シ最モ經濟的ナル施肥期ヲ知ラントスルモノニシテ供試品種ハ長十郎及晚三吉ノ二種トス

第 四 和洋梨整枝剪定法試驗

縣下ニ普通採用セララル棚作整枝ト關西地方ニ採用セラレツツアル盃狀形整枝トノ比較ヲ行フ外主枝側枝等ノ剪定法ニ付各種ノ試驗研究ヲ行ハントス

供試品種
長十郎、丸形晩三吉、明月、エフィポアール、グルーモルメール、レクチ
エー、ローレンス、ドワイアンズジユコミス、トライアンフ、ウインター
ネリス

第五 洋梨品種試験

縣内並ニ縣外ニ於テ著名ナル洋梨ノ品種ヲ蒐集シテ品種選擇ノ便ニ供セ
ントス

供試品種
ブレコース、パートレット、フレミツシユビユーテイ、ヂエツセスダング
レーム、ポーレークレルジョウ、ラ、フランス、バツスクラツサン、イース
ターポーレー

第六 米國種葡萄品種試験

縣内並ニ縣外ニ於テ優良ト認ムルデラウエア外八品種ヲ蒐集シテ品種比
較試験ヲ行ハントス

收量調査 (樹齡四年)

一品種三本宛、株間(二間半、二間半)反當四十八本植

品 種 名	一本當 平均收量	反當同上	品 種 名	一本當 平均收量	反當同上
デラウエア	.170	8,160	カバナーロツス	—	—
キャンベルスアーリー	1.118	53,664	キクマ	.172	8,256
ブライトン	.051	2,448	ハイランド	—	—
レディオシントン	1.163	55,824	ハーバート	.148	7,104
ミルズ	—	—			

第七 歐洲種葡萄品種試験

本縣ニ於テ露地栽培ニ適スル著名ナル歐洲種アドリアジャン外十九種ヲ
蒐集シテ品種選擇ノ便ニ供セントス

收量調査 (樹齡四年)

一品種四本宛、株間(二間、二間)反當七十五本植

品 種 名	一本當 平均收量	反當同上	品 種 名	一本當 平均收量	反當同上
アドリアジャン	.454	36,320	ラフォレブランジュ	—	—
シヤスラードフォンテンロー	.118	9,440	ゴールデンチヤンピオン	—	—
スイートウオナー	.196	15,680	マスカットハンパーク	.246	19,680
シヤスラーローズ	.089	7,120	マラガマスガテラ	.056	4,480
ゴールデンシヤスラー	.044	3,520	ゴールデンクイン	.210	16,800
ジンファンデル	.895	71,600	トーカーオーション	.029	2,320
ピノーブラン	.474	37,920	グリーサー	.008	.640
フォスターシードリング	.165	13,200	ブラックアlicant	.073	5,840
ブラックハンパーク	.204	16,320	メイニオンジョーン	.017	1,360
ユンガ	—	—	ホワイトシードリング	.117	9,360

第八 歐洲及ビ米國種葡萄免疫性砧木試験

本縣ニ於ケル代表的歐洲並ニ米國種葡萄九品種ニ各免疫性砧木六品種ヲ
接木シテ接着ノ狀況果實並ニ地上部ニ及ボス影響ヲ試験セントスルモノナ
リ

供試免疫性砧木

ルベストリスセントジョージ、リバリアルベストリス三三〇六號、リバリ
アルベストリス三三〇九號、リバリアグロアールモンベリエー、モンチコ
ラリバリアー八八〇八號、ソロニスオセロー六一三號

供試品種

アドリアジャン、シヤスラーローズ、フォスターシードリング、マラガマス
ガテラ、ブラックハンパーク、ゴールデンクイン、デラウエア、キャンベ
ルスアーリー、甲州

第九 甲州葡萄整枝法試験

甲州、善光寺並ニ三尺ノ模範栽培ヲ行ハントスルモノナリ

供試品種

甲州、善光寺、三尺

第一〇 甘柿品種試験

全國ニ於ケル著名ナル甘柿ノ品種ヲ蒐集シテ品種選擇ノ便ニ供セントス

供試品種

子成場、三國一、四谷、禪寺丸、富有、甘百目、水島、花御所、白乳、天神御所、代々丸、次郎、伽羅、御寺

第一一 澁柿品種試験

澁柿中ノ優良品種ヲ蒐集シテ品種選擇ノ便ニ供セントス
供試品種

田倉、倉光、早生寺社、堂上蜂屋、蜂屋、會津自不知、西條、祇園坊、平核無シ、川端、紋平

第一二 桃品種試験

縣内並ニ縣外ニ於テ著名ナル桃ノ品種ヲ蒐集シテ品種選擇ノ便ニ資セントス

供試品種

アムステンジューン、田中早生、橘樹早生、旭水蜜、東雲水蜜、小林水蜜、大正早生、トライアンフ、アーリーリバーズ、傳十郎、カールマン、離核、白桃、二ノ宮ミュール、土用、大統領、上海、金桃、エルバーター

收量調査(樹齡四年)

一品種六本宛 株間二間半、二間半 反當四十八本植

種	品	一本當平均收量	反當同上	種	品	一本當平均收量	反當同上
アムステンジューン		—	—	カールマン		—	—
田中早生		.030	1.440	離核		—	—
橘樹早生		—	—	白桃		—	—
旭水		—	—	二ノ宮ミュール		.014	.672
東雲水蜜		.022	1.056	土用		—	—
小林水蜜		—	—	大統領		.012	.576
大正早生		.008	.384	上海		—	—
トライアンフ		—	—	金桃		—	—
アーリーリバーズ		—	—	エルバーター		—	—
傳十郎		—	—			—	—

第一三 栗品種試験

本邦ニ於ケル栗ノ著名ナル品種ヲ蒐集シテ比較試験ヲ行ハントス
供試品種

豊多摩早生青島、乙宗、鹿ノ爪、銀寄、金由、岸根、手々打、長光寺、霜被、今北、毛長、本庄

第一四 苹果品種試験

縣内並ニ縣外ニ於ケル著名ナル苹果ノ品種ヲ蒐集シテ品種ノ特性ヲ明ニシテ品種選擇ノ便ニ供セントスルト同時ニ苹果ノ模範栽培ヲ行ハントス

供試品種

紅魁、小錦、祝、旭、鳳凰卵、紅玉、新倭錦、倭錦、國光、黄魁、デリシアス、ピスマルク、ミネトンカ、エイケン、スミスサイダー、キングダビット、ニウタウンスピツピン、ワインサップ、レンネットジユカナダ、カルビールルーゲ、コックスオレンジスピツピン、カルビールブラン、ハススロツブ、アレキササンダー

第一五 苹果整枝法試験

棚作整枝法ヲ採用シテ盃狀形整枝法トノ比較試験ニ供セントス

供試品種

紅魁、小錦、新倭錦、祝、紅玉

第一六 櫻桃品種試験

全國ニ於ケル著名ナル櫻桃ノ品種ヲ蒐集シテ品種選擇ノ便ニ供セントス
供試品種

日の出、チャップマン、ビガローグラン、大紫、センテニアル、黄玉、エルトン、エロースパニツシユ、メージューク、那翁、ランバート、レンホルテンス、フローレンス、ピング、シミツツピカロー

蔬菜ノ部

第一 促成栽培菜豆品種比較試験

矮性菜豆中促成栽培ニ最モ適シタル品種ヲ選擇セントスルニアリ
試験成績次ノ如シ

品	種	名	播種	定植	採收初	採收終	備	考
			月日	月日	月日	月日		
サットン	スフォ	シソ	3.17	3.31	4.12	5.20	距離八寸ニ二本立トス	
			0.753					

ロングフェロー	0.433	3.17	3.31	4.12	5.20
フリンズノアー	0.552	3.17	3.31	4.12	5.20
長 鶉	0.311	3.17	3.31	4.12	5.20

備考 温度攝氏平均二十度、一本ノ重量ハ平均二夕内外ノ花附キノセルモノヲ收穫ス
 以上ノ成績ニヨレバ「サツトンスフオシグ」種最モ收量多ク之ニ次グニ
 「フリンズノアー」種トシ「ロングフェロー」長鶉ノ兩種ハ收量劣ルヲ見ル

第二 白菜品種比較試験 (繼續第六年)

本縣ニ適スル優良ナル品種ヲ選擇セントスルニアリ
 供試品種及試験成績次ノ如シ

品 種 名	反 當 收 量		累年平均 反當收量	結球 難易	結球 早晚	株ノ 大小	病虫害 抵抗力	試験年數
	個數	重 量						
芝 罌	2,300	1114.150	933.165	易	中	大	強	6
抱 頭 連	1,825	1057.875	788.061	易	中	大	強	6
金 州	2,125	988.250	994.927	稍難	晚	大	最強	6
愛 知	2,600	803.500	1991.500	易	早	小	弱	3
直 隸	2,050	1015.740	842.631	稍難	中	大	中	6
開 城	2,175	382.000	582.930	難	早	中	中	6
滿 日	2,675	1025.000	1025.000	易	晚	小	強	1

以上試験ノ結果及其ノ他ノ諸點ヲ考察シ其ノ最モ優良ナルハ芝罌、抱頭連
 ニシテ滿日、金州之ニ次グ愛知(名和前)白菜ハ結球早生ナルモ病害ニ對ス
 ル抵抗力少ナク結球小ニシテ葉肉薄ク收量多カラズ開城、直隸ハ外觀惡シ
 ク市場向トシテ良好ナラズ

第三 甘藷耕種法試験 (繼續第二年)

甘藷ノ各種栽培法中本縣ニ最モ適シタル方法ヲ選擇セントスルニアリ
 本年度成績次ノ如シ

試験別	反當株數	反 當 收 量		同 内 譯			
		個 數	重 量	大個數	大重量	小個數	小重量
赤澤式	3,360	13,640	467,000	5,880	347,800	7,760	119,200
袴田式	2,880	13,200	395,700	5,160	304,400	8,040	91,300
園木式	1,200	8,800	292,600	3,740	235,000	5,060	57,600
德永式	,300	10,250	160,750	3,000	105,500	7,250	55,250
支柱立	3,360	17,000	572,000	7,820	411,000	9,180	161,000
敷 藁	3,360	17,140	566,000	8,580	464,600	8,560	101,400

以上ノ成績ニヨレバ支柱立區最モ收量多ク敷藁、赤澤式、袴田式ノ順位
 ニシテ園木式、德永式最モ收量少シ而シテ諸ノ着生ハ支柱立、赤澤式ニ於
 テ近成リノ状態ヲ示シ袴田式ハ前二者ヨリ稍遠成リトナリ敷藁區、德永式
 園木式最モ遠成リヲ示セリ形狀大小ニ於テハ敷藁區赤澤式ニ於テ整一ナル
 ヲ見支柱立之ニ亞ギ他ノ三者ハ不整ナリ故ニ以上六種ノ栽培法中本年度試
 験ニ於テハ赤澤式、支柱立、敷藁區ノ三者良好ニシテ袴田式之ニ次グ

第四 茄子品種比較試験 (繼續第四年)

本縣ニ最モ適シタル品種ヲ選擇セントスルニアリ
 試験成績次ノ如シ

品 種 名	反當重量	同個數	累年平均成績		備 考
			個 數	重 量	
中 生 山 茄	1,307,900	73,250	81,048	1,197,475	
蒂 紫	2,048,050	103,200	1,011,800	1,693,038	
矢 原	1,584,550	68,000	72,880	1,523,125	
魚 沼 巾 着	1,313,600	44,950	52,223	1,013,633	
改 良 巾 着	1,250,250	45,450	47,843	1,202,160	
蔓 細 千 成	1,101,050	82,200	77,213	1,025,167	
拆 戸	603,300	57,400	65,372	794,900	
行 德	1,433,700	120,650	106,558	1,402,925	
眞 黒	1,012,300	60,650	65,515	1,026,350	
芹 川	1,201,350	46,850	41,695	898,575	

以上ノ成績ニヨレバ蒂紫最モ收量多ク矢原之ニ次ギ行德魚沼巾着、中生
 山茄、改良巾着、蔓細千成、眞黒、拆戸ノ順位トス

第五 甘藷純系淘汰試験 (繼續第五年)

撰抜シタル金時及紅赤ノ各純系ト從來ノ品種ノ比較ヲ行ヒタリ
 試験成績次ノ如シ

品 種 名	反 當 株 數	反 當 收 量		同 内 譯		貯 藏 中 腐敗歩合	
		個 數	重 量	大個數	大重量		
普通紅赤	13,950	301,500	6,900	242,000	7,050	59,500	100.0
紅赤純系	14,625	256,875	7,200	210,750	7,425	46,125	100.0
普通金時	10,400	328,000	7,650	293,250	2,750	34,750	42.5
金時一號	8,325	333,000	4,125	246,750	4,200	86,250	20.6
同 二 號	7,725	324,750	5,250	275,625	2,475	49,125	19.9

同三號	9,900	259,500	5,400	225,750	4,500	33,750	19.8
同四號	15,000	436,500	7,050	319,500	7,950	117,000	28.0
同五號	12,000	336,000	5,850	255,750	6,150	80,250	21.1
同六號	10,650	340,500	5,100	273,750	5,550	66,750	28.3
同七號	10,650	389,250	6,450	324,000	4,200	65,250	46.3

以上收量比較ノ結果紅赤純系ハ普通品種ヨリ稍劣リ金時二號、三號ノ兩種ハ普通金時ヨリ收量劣リ他五系統ハ普通金時ヨリモ增收シ就中金時第四號ハ既往二ケ年間ノ成績ニ著シキ增收ヲ示セリ

第六 茄子塩素刺戟効果試験 (繼續第五年)

茄子種子ヲ塩水中ニ於テ豫措スル時ハ其ノ刺戟ガ茄子ノ發芽及生育收量ニ如何ナル影響アルヤヲ試験セントスルニアリ

供試品種 蒂紫種

區名	試 驗 別	發芽歩合 %	反 當 收 量		立枯病 被害歩合 %
			重 量	個 數	
1	水一合鹽一匁四〇日間浸漬	6.3	1,916.434	86,091	1
2	水一合鹽二.五匁四〇日間浸漬	7.4	1,837.800	86,200	—
3	水一合鹽五匁四〇日間浸漬	7.0	1,769.850	87,500	—
4	水一合鹽一匁七〇日間浸漬	11.0	1,973.790	93,420	—
5	水一合鹽二.五匁七〇日間浸漬	0.6	1,872.540	91,260	—
6	水一合鹽五匁七〇日間浸漬	1.0	1,635.450	81,000	—
7	水一合鹽一匁一〇〇日間浸漬	11.0	1,595.000	84,400	—
8	水一合鹽二.五匁一〇〇日間浸漬	13.0	1,666.029	83,389	1
9	水一合鹽五匁一〇〇日間浸漬	8.0	1,761.100	89,250	—
10	水一合鹽一匁一五〇日間浸漬	16.0	1,667.100	85,850	—
11	水一合鹽二.五匁一五〇日間浸漬	23.0	1,727.450	85,150	—
12	水一合鹽五匁一五〇日間浸漬	26.0	1,597.100	86,550	—
13	標 準 區	83.0	1,679.194	83,571	1

以上ノ成績ニヨレバ第六、七、八、一〇、一二ノ五區ヲ除ク外ハ標準區ニ比シ收量多ク鹽ノ量少ナク浸漬日數少ナキモノニ於テ收量ノ増加シタルヲ見タリ而シテ之ヲ從來ノ試験ニ比較スルニ甚ダ相違ノ點多ケレバ尙ホ本試験ヲ繼續シ之ガ研究ニ努メントス

第七 甘藷品種比較試験 (繼續第六年)

本試験ハ甘藷ノ優良ナル品種中ヨリ特ニ本縣ニ適スル品種ヲ選擇スルニ

アリテ供試品種及收量次ノ如シ

品 種 名	反 當 收 量		累 年 平 均 收 量
	個 數	重 量	
紅 赤	13,950	301,500	410,255
金 時	10,400	328,000	511,590
石 川 金 時	10,400	332,250	442,863
千 葉 赤	8,850	512,000	450,921
花 魁	16,800	1,040,500	1,040,500
櫻 籬	11,200	394,500	536,750
相 州 白	9,950	421,500	514,840
三 州	10,700	430,500	438,779
栗 籬	10,600	400,500	527,162
三 保 籬	8,100	437,750	558,375
蔓 無	12,800	633,000	767,162

成績比較一覽表

比較項目	紅赤	金時	石川金時	千葉赤	花魁	櫻籬	相州白	三州	栗籬	蔓無	三保
本年度收量順位	11	9	10	3	1	8	6	5	7	2	4
本年度試食風味順位	1	2	7	8	5	9	4	12	3	11	10
累年平均收量順位	11	7	9	8	1	4	6	10	5	2	3
平均年數	6	6	6	5	1	2	4	6	6	6	2

以上ノ成績ニヨレバ概シテ風味ノ良否ト收量ノ多少トハ相反スルモノノ如ク風味良好ナルモノハ紅赤、金時、栗籬等ニシテ收量多キハ花魁、蔓無等ナリ而シテ品質收量ノ二點ヲ考察シ加フルニ貯藏力ヲ以テセバ金時紅赤、栗籬等有望ナルモノノ如シ

第八 馬鈴薯增收法試験

馬鈴薯ノ栽植ニ際シ切斷豫措ヲ行ヒ又生育期間中其分蘗數ノ制限ガ收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤヲ試験セントスルニアリ

供試品種 アーリーローズ種(一個平均二十匁ノ薯)標準區ハ二區ヲ設ク試験成績次ノ如シ

區名	試 驗 別	反 當 收 量		同 上 内 譯					
		個 數	重 量	大個數	大重量	中個數	中重量	小個數	小重量
1	標 準 區 (切斷シテ即時栽植)	28,950	375,250	2,500	104,125	7,575	148,250	18,875	122,875
2	一晝夜予措	27,100	381,000	2,400	110,500	7,500	123,750	17,500	146,750

3	二晝夜予措	29.050	361.250	2.500	96.250	6.500	132.250	20.000	132.750
4	五晝夜予措	27.250	310.750	1.750	71.750	6.500	122.000	19.000	117.000
5	薯ノ厚 ⁺ ノ二倍ノ覆土	27.550	423.750	2.400	118.250	7.100	170.750	18.050	134.750
6	薯ノ厚サト等 ⁺ ノ覆土	27.400	381.750	2.400	112.250	6.400	139.750	18.600	129.750
7	除藥シテ一本立	21.000	332.000	2.400	107.500	4.000	97.250	14.600	127.250
8	除藥シテ三本立	32.750	414.500	2.250	107.500	4.500	95.750	26.000	207.250
9	無除藥	44.350	448.250	1.800	68.500	7.250	145.500	35.300	234.250
10	薯ノ上部少 ⁺ 切斷ス	22.150	300.750	2.150	78.250	9.250	163.500	10.750	59.000
11	薯ノ下部少 ⁺ 切斷ス	24.100	281.500	1.900	64.000	6.950	123.750	15.250	93.750

以上試験ノ結果ニヨレバ第九區收量最モ多ク第五第八區之ニ次ギ第六第二標準區ノ順位ニ劣レルヲ見ル尙ホ試験ヲ繼續セントス

第九 蘿蔔品種比較試験 (繼續六年)

本縣ニ最モ適スル品種ヲ選擇センガ爲メ各地ノ優良品種ヲ比較栽培セントス

供試品種及成績次ノ如シ

品 種 名	反 當 收 量		累年平均收量	試驗年數	用 途
	個 數	重 量			
宮 重 大 根	5,902	1,642.500	9,603.725	6	漬用・煮用
津 島 屋 大 根	7,238	1,087.500	4,836.660	4	同
赤 筋 大 根	5,513	1,090.125	4,780.425	4	漬 用
練 馬 大 根	6,188	848.250	3,968.275	3	同
聖 護 院 大 根	6,188	1,198.875	5,296.550	4	煮用・生食用
櫻 島 大 根	4,500	528.750	5,296.550	2	煮用・漬用
島 大 根	5,625	1,316.250	5,879.900	4	漬 用

以上試験ノ結果收量最モ多キハ宮島大根ニシテ聖護院、島大根之ニ次グ而シテ用途、風味ノ點ヨリ優良ナルモノヲ選擇スレバ比較的粘重ナル地ニ於テハ聖護院大根トシ中庸ノ地ニ於テハ練馬大根ヲ可トシ砂地ニ於テハ津島屋大根ヲ可トスルモノノ如シ

第一〇 西瓜移植法試験

西瓜ハ出荷ノ早晚ニヨリ其ノ價格ニ著シキ差異アリ而シテ之ガ早期ノ播種ハ外氣ノ低溫及種蠅等ニ侵サレ易ク往々失敗ニ陥ル事アリ故ニ之ガ播種ニ當リ溫床内ニ於テ種々ノ方法ニヨリ播種シ適當ノ時期ニ本圃ニ定植セントスルモノニシテ試験成績次ノ如シ

供試品種 トムワットソン 一區面積十二坪 十二株

試 驗 別	播種月日	定植月日	溫床内ノ狀況	定植後ノ狀況	總個數	總重量
標 準	4.25	發芽不長			16	17.800
藁 鉢	4.13	6.5	中ノ下	中ノ上	14	15.940
竹 實 製 籠 鉢	4.13	6.5	中ノ上	中ノ上	16	17.400
竹 製 搖 籃	4.13	6.5	中	中ノ上	16	15.670
木製取ハヅシ鉢	4.13	6.5	中ノ上	中ノ上	13	15.230
直播亞鉛引鐵板框	4.25	發芽中			17	18.320
木 框	4.25	發芽長			18	19.585

備考 藁製鉢ノ大サハ直徑三寸七分深サ四寸ノ圓筒形ニシテ此ノ内ニ作土(堆肥三分五厘糞土四分、砂土二分五厘油粕五厘、ノ混合腐熟セルモノ)ヲ入レ播種セルモノトス一個價格三錢五厘

竹實製五分目籠鉢ハ直徑四寸深サ四寸ノ竹實製ノ圓筒形ニシテ一個三錢

竹製搖籃ハ直徑四寸深サ四寸二分ノ圓筒形一個二錢

木框取ハヅシ鉢ハ直徑三寸八分深サ四寸ノ立方形一個四錢

亞鉛引鐵板框ハ直徑七寸深サ四寸ノ圓筒形一個六錢五厘

以上試験ノ結果收量ノ多キハ木框區ニシテ之ニ次グニ亞鉛引鐵板框區竹實製籠鉢標準區竹製搖籃區、木製取ハヅシ鉢區ノ順位ナルモ最モ早く登熟シタルハ竹實製籠鉢ナリトス而シテ藁製鉢、木製取ハヅシ鉢ハ氣水ノ透通惡シク西瓜發芽及生育ノ際惡影響ヲ及ボシ本圃ニ定植後モ良好ナラズ之ヲ要スルニ溫床内生育ノ際ハ氣水ノ透通良好ニ稍乾燥ニ保ツモノニ於テ成績良好ナルモノノ如シ

第一一 南瓜落顆防止法試験

南瓜ノ落顆ニハ種々ノ原因アルヲ以テ之ガ着顆ニ最モ適當セル栽培法ヲ試験セントス

供試品種 居木橋 試驗面積 一區十坪

試驗成績次ノ如シ

區名	試 驗 別	蔓ノ重サ	顆ノ數	顆ノ重量	雌花ノ開着顆		備 考
					花初ノ月日	節數	
1	直 播 區	10.000	30	17.000	7.18	10.2	顆形大ナルモ肉質充實ノ度ヲ缺ク
2	新種子移植區	8.450	36	10.930	7.15	6.1	
3	舊 種 子	8.500	33	12.875	7.11	7.8	着顆早クレドモ形大ナラズ
4	自 然 放 任	11.500	30	15.585	7.19	8.4	草勢強キモ着顆多カラズ
5	親蔓一本立	5.800	17	7.750	7.16	15.5	着顆少ク登熟最モ早シ

6	本葉三枚目摘芯	7,400	3	1,225	7.16	5.0
7	本葉五枚目摘芯	8,100	34	13,680	7.16	9.0
8		8,000	29	14,450	7.16	6.0

以上試験ノ結果ニ於テ第壹區第四區收量最モ多キモ類ノ大小不同ニシテ肉質緻密ノ度ヲ欠キ甘味乏シキノ傾向アリ之ニ反シ第七第八ノ兩區ハ類ノ形狀統整ニシテ肉質緻密食味又良好而シテ第六區ハ移植當時ニシテ苗ノ強勢ナラザル時ニ於テ摘芯シタル結果多少抑制セラレタルガ如ク強勢充實シタル子蔓ノ發生少ナキ爲メカ、ル不成蹟ノ現象ヲ呈シタルモノナラント思惟ス尙ホ本試験ヲ繼續セントス

第一二 胡瓜品種比較試験

本縣産著名ナル品種ト他府縣産ノ優良ナル品種トノ比較試験ヲ行ヒ以テ本縣ニ適スル品種ヲ選擇セントス

試験成績次ノ如シ

品 種 名	反 當		形 狀	中子 多少	皮ノ 厚薄	肉ノ 厚薄	産 地
	本 數	重 量					
刈 羽 節 成	29,850	1,492,500	{長圓筒中央凹 レ先端尖ル	中	厚	厚	新潟縣刈羽郡西中通村
庄 ケ 宮	26,700	1,335,000	{短圓筒ニシテ中 央膨レ先端尖ル	多	薄	薄	新潟縣北蒲原郡堀越村
三 枚 目 節 成	31,300	1,565,000	短 圓 筒	多	厚	薄	ヤマト種苗株式會社
東 京 早 生 節 成	22,100	1,105,000	{長圓筒ニシテ 先端尖ル	中	厚	中	東京府北豐島郡長崎村
東 京 馬 込 半 白 節 成	34,100	1,705,000	長 圓 筒	小	薄	厚	東京府荏原郡馬込村
會 津 葉 込 節 成	15,150	757,500	{刈羽種ニ似タル モ中央稍細シ	小	厚	厚	福島縣北會津郡神指村
片 田 節 成	18,850	792,500	{長中庸圓筒形 先端尖ル	中	厚	薄	新潟縣中頸城郡吉川村

以上試験ノ結果東京馬込半白節成ハ收量最モ多ク三枚目節成刈羽節成之ニ次ギ庄ケ宮、東京早生節成片田節成會津葉込節成ノ順位トナルモ之ヲ外觀風味用途ヨリ見ル時ハ漬物用(奈良漬)トシテハ刈羽節成及會津、葉込ヲ適當トシ外觀風味ノ點ヨリ生食用ニ供スルニハ東京馬込半白節成及ビ東京早生節成ヲ佳トス、三枚目節成ハ草勢強健ニシテ豊産ナルモ稍肥大シタル時ハ外皮赭色ヲ呈スル事早ク形短圓筒ナルヲ以テ早收穫ノ目的カ又ハ促生栽培ニ適スルガ如ク片田節成ハ外觀風味稍良好ナルモ收量劣リ草勢弱キ感アリ

第一三 促成栽培胡瓜品種比較試験

促成栽培ニ適當ナリト認ムル各種胡瓜中ヨリ左ノ三種ヲ選擇シ更ニ優良ナル品種ヲ選抜セントス

試験成績次ノ如シ (坪當 十七本)

品 種 名	坪 當		一 株 當		播種 月日	移植 回数	定植 月日	收穫初 月日	收穫終 月日
	本 數	重 量	本 數	重 量					
東京馬込半白節成	145	5,770	8.4弱	0.0398	1.18	4	3.3	4.19	6.20
刈 羽 節 成	130	6,280	7.7弱	0.0483	1.18	4	3.3	3.27	6.15
三 枚 目 節 成	156	2,701	9.2弱	0.0173	1.18	4	3.3	4.17	6.15

備考 温床ハ簡易ボイラ設置ノモノヲ使用ス

第二回日本葉二枚ノ時ボイラニ故障ヲ生シ約十日間攝氏十七度ノ温床ニ移植シタル爲メ採收初メ稍遅ル

平均温度攝氏二十三度

以上試験ノ結果收穫期早ク收量最モ多キハ刈羽節成ニシテ東京馬込半白節成之ニ次ギ三枚目節成最モ收量少ナキヲ見タリ而シテ促成栽培ハ草勢ノ強健ナルト類ノ幼少ナルトキノ外觀良キヲ得ルノ必要アレバ此ノ目的ニ沿ハンガ爲メニハ東京馬込半白節成及三枚目節成ヲ優良ナリト思惟ス

第一四 甘藷品種對貯藏試驗 (繼續第五年)

甘藷中如何ナル品種ガ最モ貯藏力強大ナルヤヲ試驗セントスルニアリ
試験成績次ノ如シ

品 種 名	貯藏 月日	貯 藏 前		取 出		貯 藏 後		貯藏中 重量減 少歩合	健全藷		腐敗藷		腐敗 歩合	累年平 均腐敗 歩合
		個數	重 量	月日	個數	重 量	個數		重 量	個數	重 量			
櫻 藷	11.3	104	4,540	4.7	104	4,090	9.9	78	3,460	26	0,630	15.4	8.65	
花 魁	11.3	137	9,930	4.7	137	8,675	12.6	39	2,345	100	6,330	73.0	73.00	
蔓 無	11.3	47	715	4.7	47	4,271	9.4	5	0,465	42	3,810	89.2	30.36	
紅 赤	11.3	122	4,050	4.7	122	3,720	8.1	—	—	122	3,720	100.0	42.42	
金 時	11.3	96	3,965	4.7	96	3,410	14.0	54	1,960	42	1,450	42.5	17.69	
千葉赤	11.3	59	4,475	4.7	59	3,560	20.4	2	0,090	57	3,470	89.0	46.55	
相州白	11.3	70	4,470	4.7	70	4,070	8.4	10	0,675	60	3,970	97.5	97.50	
三 州	11.3	73	4,570	4.7	73	5,045	11.5	45	2,760	28	1,285	31.8	10.60	
栗 藷	11.3	77	4,620	4.7	77	4,170	9.7	53	3,030	24	1,140	27.3	20.02	
石川縣産 金 時	11.3	73	4,085	4.7	73	3,510	14.1	49	1,900	24	1,610	45.9	17.19	
三保藷	11.3	62	4,685	4.7	62	3,970	15.3	15	0,620	47	3,350	84.4	47.00	

以上累年平均成績ニヨレバ相州白、花魁、三保落、千葉赤、紅赤ニ於テ腐敗多ク櫻落、金時、三州、石川縣産金時、栗諸ニ於テハ腐敗歩合最モ少シ

第一五 馬鈴薯貯藏法試験

春作馬鈴薯ハ其貯藏中ニ於テ腐敗歩合多ク且ツ種薯トシテ貯藏セルモノモ其状態良シキヲ得ザルトキハ徒ニ發芽伸長シテ不適ナルモノアリ依ツテ之ガ完全ナル貯藏法ヲ試験セントス
試験成績次ノ如シ

區名	試験別	貯藏前		取出		貯藏後		貯藏後全薯		同腐敗薯		重量減少歩合	腐敗歩合	芽伸長度
		月日	總重量	月日	總重量	總重量	總重量	總重量	總重量					
1	斷崖横穴	7.13	246	5.000	11.3	246	4.270	170	3.380	76	0.890	14.6	20.8	僅ニ微シ
2	舍内コンクリート穴	7.13	237	5.000	11.3	237	3.705	160	2.665	77	1.040	25.9	27.9	—
3	舍内石油箱詰	7.13	238	5.000	11.3	238	4.415	191	3.775	47	0.640	11.2	14.5	4—5寸
4	舍内土間平穴	7.13	253	5.000	11.3	253	4.465	140	2.800	113	1.665	10.7	37.3	5—6寸
5	森中穴	7.13	248	5.000	11.3	248	5.220	151	4.060	97	1.160	4.4	22.2	1尺

以上ノ成績ニヨレバ萌芽ノ状況ハ第一區第二區最モ良好ニシテ第三區之ニ次ギ第四、第五區共ニ成績不良ニシテ種薯用トシテ不可ナリ而シテ貯藏場所ノ状態ヲ見ルニ第一區第二區共ニ清涼ニシテ濕氣少ナク第三區ハ砂中ニ埋メタルヲ以テ稍砂土ニ濕氣ヲ含ミ萌芽シタリ第四、第五區ハ温度高ク濕氣多キタメ萌芽ノ度甚シク結果不良トナリタルモノナラン之ヲ要スルニ貯藏場所ハ夏季清涼ニシテ濕氣少ナク冬季凍結セザル範圍内ニ於テ温度低ク濕氣少ナキヲ可トスルモノノ如ク思惟セラル

第一六 西瓜品種比較試験

西瓜ノ優良ト認ムル品種ヲ各地ヨリ蒐集シ本縣ニ適スル品種ヲ選擇セントス

試験成績次ノ如シ

品種名	反當		一顆平均重量	顆形	表皮色澤	肉質及色	甘味ノ度	種子ノ大小	備考
	畝數	重量							
大和	850	658,000	775.0	圓	淡綠	緻密紅	甘味強シ	小	晩生ナルガ故ニ着顆遅キトキハ顆ノ小形ノモノ多クナル傾向アリ大ナルモノハ四貫二百匁内外ニ達ス
トムワットソン	1,233	752,000	610.0	長楕圓	綠濃斑	緻密紅	甘味強ク上品ナ味	中ノ大	
マウンテンキート	350	473,183	1,352.0	楕圓	綠濃斑	緻密紅	甘味強シ	大	

アイスクリーム	666	651,000	978.0	球形	淡綠	緻密紅	同	上	大
スノーキート	883	748,000	846.0	卵圓	濃綠	緻密紅	甘味強ナリ	中	
甘露	866	627,000	724.0	圓	淡綠	緻密紅	甘味強シ	小	
ゴールデンハーネー	900	411,750	458.0	球形	淡綠	緻密紅	甘味中庸	大	
天津甘露	1,500	891,275	594.0	楕圓	濃綠	緻密紅	甘味稍劣	大	

以上試験ノ結果最モ收量ノ多キハ天津甘露ニシテ之ニ次グニ「トムワットソン」「スノーキートサイベリアム」大和「アイスクリーム」甘露「マウンテンキート」「ゴールデンハーネー」ノ順位ナルモ品質、風味、市場ノ諸點ヲ考慮スル時ハ早生ニ於テハ、大和、甘露、晩生ニ於テハ「トムワットソン」ヲ良優ナルモノト認ム

農藝化學部

木 框 試 驗 之 部

第 一 天 然 供 給 量 試 驗 (水 稻) (繼 續 第 十 二 年)

本試驗ハ本場土壤ニツキ水稻生育中土壤及灌溉水ヨリ天然ニ供給セラル、三要素量ヲ知ラントスルニアリ其ノ試驗區別、肥料名、反當分量及成績ハ次ノ如シ

試驗區別肥料名	反 當 成 分 量	葉	枇	穀	平 均	
					葉	穀
1 完全區 { 硫 安 過 磷 酸 硫 加	5 5 5	855.5	18.5	843.5	769.8	610.5
2 無窒素區 { 硫 安 過 磷 酸 硫 加	— 5 5	297.7	4.3	321.0	382.7	380.9
3 無磷酸區 { 硫 安 過 磷 酸 硫 加	— 5 5	797.3	15.7	640.0	755.0	529.5
4 無加里區 { 硫 安 過 磷 酸 硫 加	— 5 5	599.7	16.0	616.3	698.0	461.1
5 無肥料區 { 硫 安 過 磷 酸 硫 加	— — —	270.3	4.0	290.0	335.4	343.5

成績概要 十二ヶ年ノ平均成績ニヨレバ完全區最モ成績優良ニシテ無磷酸區、無加里區、無窒素區、無肥料區ノ順次ニ其ノ收量ヲ減ズ

第 二 有 機 質 肥 料 ノ 地 力 ニ 及 ボ ス 影 響 試 驗 (繼 續 第 五 年)

本試驗ハ各種有機質肥料ノ地力ニ及ボス影響ヲ試驗セントスルモノニシテ其ノ試驗區別、肥料名、反當施用量及成績ハ次ノ如シ

試 驗 區 別	反 當 施 用 量	葉	枇	穀	平 均	
					葉	穀
1 堆肥施用區	400,000	361.7	5.0	382.5	445.0	414.8
2 { 堆 肥 大豆粕 施用區 骨粉 木 灰	200,000	440.3	8.4	407.3	466.7	448.7
	12,000					
	3,000					
	10,000					
3 { 野 草 大豆粕 施用區 骨粉 木 灰	200,000	357.7	10.0	427.3	515.9	517.8
	15,000					
	4,000					
	11,000					

4	紫雲英 大豆粕 骨粉 木灰	施用區	209,000	456.0	6.0	414.7	469.8	431.6
			12,000					
			4,500					
			13,000					
5	生大豆 大豆粕 骨粉 木灰	施用區	160,000	396.3	5.4	372.3	436.3	417.7
			15,000					
			4,700					
			8,000					
6	大豆粕 骨粉 木灰	施用區	30,000	443.0	9.3	445.7	486.1	489.6
			4,000					
			10,000					
7	硫酸 過磷酸 安加	施用區	10,000	425.0	6.4	386.3	502.9	479.9
			10,000					
			4,000					

備考 1. 窒素ハ反當二貫トシ内一貫ヲ草ノ如キ自給肥料ニテ施シ他ノ一貫ヲ大豆粕ニテ施セリ

2. 磷酸及加里ハ共ニ反當二貫トシ自給肥料中ニ於ケル磷酸及加里ノ不足分ハ骨粉及木灰ニテ施セリ

成績概要 五ケ年ノ平均成績ニヨレバ野草ヲ施セルモノ成績最モ優良ニシテ堆肥ノミヲ施セルモノ成績最モ劣レリ

土管試験之部

第一 窒素質及磷酸質肥料ノ吸收率檢定試験 (繼續第三年)

本試験ハ水稻ニ對シ窒素及磷酸ノ吸收率ヲ檢定セントスルモノニシテ窒素質肥料トシテハ硫酸、魚肥、大豆粕、米糠、石灰窒素、紫雲英及堆肥ノ七種ヲ選定シ磷酸質肥料トシテハ過磷酸、骨粉、米糠、木灰、及「磷酸アルミナ」ノ五種ヲ選定シテ試験ヲ施行セリ而シテ其ノ成績ハ尙不明ノ點多キヲ以テ繼續試験ヲ施行セントス

第二 窒素對磷酸及窒素對加里ノ比率試験 (繼續第二年)

本試験ハ水稻ニツキ窒素ニ對シ磷酸及加里ノ適當ナル比ヲ見出サントスルニアリ而シテ窒素ハ反當三貫及五貫ノ二種トシ其ノ比率ハ窒素1.0ニ對シ磷酸又ハ加里ハ0.8、1.0、1.2、及1.4ニツキ試験ヲ施行セリ其ノ成績ハ二ケ年ノ平均ニヨレバ窒素ニ對シ磷酸又ハ加里ノ比率窒素三貫及五貫何レニ於テモ同量ノ場合最モ成績優良ナリ尙繼續試験ヲ施行セントス

圓筒試験之部

第一 磷酸鹽ノ形態試験 (繼續第四年)

本試験ハ各種磷酸鹽ノ形態ガ稻作ニ及ボス影響ヲ查定セントスルモノニシテ磷酸鹽ノ形態ハ磷酸一石灰、磷酸二石灰、磷酸三石灰、磷酸鐵及磷酸礬土ノ五種ヲ選定セリ而シテ其ノ成績ハ四ケ年ノ平均ニヨレバ磷酸一石灰成績試験ニシテ磷酸二石灰之ニ次ギ磷酸礬土成績最モ劣レリ尙繼續施行セントス

第二 磷酸鹽ノ肥効上鐵及礬土ノ影響試験 (繼續第三年)

本試験ハ磷酸鹽ノ肥効上鐵及礬土ノ多少ガ稻作ニ及ボス影響ヲ查定セントスルモノニシテ磷酸鹽トシテハ磷酸一石灰、磷酸二石灰、磷酸三石灰、磷酸鐵及磷酸礬土ノ五種ヲ選定シ之ニ鐵及礬土ヲ水酸化物トシテ「ボット」ニツキ五瓦ヲ加用セリ其ノ成績ハ不明ノ點多キヲ以テ尙繼續試験ヲ施行セントス

第三 促肥素ノ効果試験 (新設)

本試験ハ水稻ニ對シ促肥素ノ効果ヲ查定セントスルモノニシテ促肥素無加用區、標準量加用區、標準五倍量加用區、及標準十倍量加用區ニツキ試験ヲ施行セリ本年度ノ成績ニヨレバ標準十倍量加用區稍成績良好ナリ尙繼續試験ヲ施行セントス

第四 三要素試験 (新設)

本試験ハ本場土壤ニツキ大麥生育中土壤ヨリ天然ニ供給セラル、三要素量ヲ查定セントスルモノニシテ本年度ノ成績ニヨレバ完全區最モ成績優良ニシテ無磷酸區、無加里區、無窒素區、無肥料區ノ順ニ其ノ收量ヲ減ズ尙繼續試験ヲ施行セントス

第五 窒素質及磷酸質肥料肥効試験 (新設)

本試験ハ窒素質及磷酸質肥料ノ大麥ニ對スル肥効ヲ查定セントスルモノニシテ窒素質肥料トシテハ硫酸、智利硝石、石灰窒素、大豆粕、魚粕、米糠、菜種粕及堆肥ヲ選定シ磷酸質肥料トシテハ過磷酸、骨粉、磷酸アルミナ、米糠及木灰ヲ選定シテ試験ヲ施行セリ本年度ノ成績ニヨレバ窒素質肥料トシテハ硫酸最モ成績優良ニシテ魚粕、智利硝石之ニ次ギ堆肥最モ

成績劣レリ、磷酸質肥料トシテハ過磷酸最モ成績優良ニシテ「磷酸アルミナ」之ニ次ギ骨粉最モ成績劣レリ、尙繼續試験ヲ施行セントス

第六 苦土ノ効果試験

本試験ハ大麥ニ對シ苦土ノ効果ヲ査定セントスルモノニシテ「ボット」ニシテ石灰十瓦加用區、苦土、十瓦加用區、石灰五瓦及苦土五瓦加用區及石灰及苦土無加用區ニツキ試験ヲ施行セリ本年度ノ成績ニヨレバ石灰及苦土加用區成績最モ優良ニシテ石灰加用區之ニ次ギ石灰及苦土無加用區成績最モ劣レリ尙繼續試験ヲ施行セントス

第七 促肥素ノ効果試験 (新設)

本試験ハ大麥ニ對シ促肥素ノ効果ヲ査定セントスルモノニシテ促肥素無加用區、標準量加用區、標準五倍量加用區及標準十倍量加用區ニツキ試験ヲ施行セリ、本年度ノ成績ニヨレバ標準五倍量加用區成績最モ優良ニシテ標準量加用區之ニ次ギ十倍量加用區成績最モ劣レリ尙繼續試験ヲ施行セントス

施肥標準調査之部

第一 三要素試験 (繼續第二年)

本試験ハ三要素試験ノ結果施肥ノ標準ヲ査定セントスルモノニシテ西頸城郡、東頸城郡、南魚沼郡、東蒲原郡及岩船郡ノ五郡ヨリ代表的ト認ムベキ土壤三十ヶ品ヲ選定シ之等ノモノニツキ三要素試験ヲ施行セリ

第二 依托試驗

從來施行シ來リタル施肥標準調査施行町村ニツキ依托試験ヲ施行シタルモノニシテ之等ノ依托試験施行町村ハ南魚沼郡ニ於テハ中之島村、石打村六日町、城内村、浦佐村、東村、及大崎村、ノ七ヶ町村北魚沼郡ニ於テハ城川村ノ一ヶ村、古志郡ニ於テハ上組村ノ一ヶ村、刈羽郡ニ於テハ刈羽村ノ一ヶ村、中頸城郡ニ於テハ新井町ノ一ヶ町、西頸城郡ニ於テハ大和川村及名立町ノ二ヶ町村、佐度郡ニ於テハ新穂村及畑野村ノ二ヶ村計十五ヶ町村ナリ

分析試驗之部

第一 依頼及場用分析

本年度ニ於ケル依頼及場用分析ノ件數及成分數及其他ハ次ノ如シ

所屬別及種類別	件數	成分數	窒素	磷酸	加里	其他	理學的 分析
依頼	土 壤	2	8	2	2	2	—
	肥 料	28	68	31	23	14	—
	其 他	7	29	5	5	—	19
	小 計	37	105	38	30	16	21
場 用	土 壤	6	45	6	6	6	20
	肥 料	20	41	17	14	8	2
	其 他	64	86	14	8	6	58
	小 計	90	172	37	28	20	80
	合 計	127	277	75	58	36	101

第二 施肥標準調査用土壤分析

施肥標準調査用土壤ノ分析件數、成分數及其他ハ次ノ如シ

件數	成分數	水分	腐種質	窒素	磷酸	加里	石灰	鐵及 錳土	全酸度	吸 收 率	理學的 分析	
				窒素	磷酸					窒素	磷酸	
30	418	11	30	30	30	30	30	11	30	30	30	156

病 虫 部

試 驗 ノ 部

第 一 稻熟病品種關係試驗

其 一 圃 場 試 驗 (繼續第六年)

水田ニ反當堆肥五百貫匁大豆粕四拾貫匁ノ割合ニ施肥シ二區ヲ設ケ二區共同様ニ各品種ノ區劃ヲ設ケズ四十八株宛ヲ一尺ニ七寸五分ノ株間ニテ栽植セシガ灌水不自由ニテ田面乾燥勝ナリシ爲メ一般ニ葉いもちノ發病甚ナカリシモ新二本、石白一號、新高ハ二區ヲ通ジ發病多ク新石白ハ一區ニノミ多ク他ノ品種ハ極メテ僅少ナルカ又ハ殆ド發病ヲ見ズ

穂首いもちハ新高、石白一號、新一本、龜ノ尾一號、越中坊主一號、新二本、石白二號、米光、早坊主一號等ニ於テ多ク發生ヲ見タリ供試品種次ノ如シ

越前一號、新岩、龜ノ尾一號、陸羽二〇號、新高、米光、中生高宮一號、早坊主一號、新大場、水ノ錦、新一本、新二本、越中坊主一號、石白一號、石白二號、新石白、改良愛國、新愛國、銀坊主

其 二 ボ ッ ト 試 驗

徑五寸ノ素焼ノ植木鉢ニ水田土壤ヲ盛リ七月二十六日各品種三十粒宛ヲ播種シ木框内ニ並列シ發芽後ハ適宜覆ヲ爲シ一日二回宛葉上ヨリ灌水シ稻熱病ノ發生シ易キ環境ヲ與ヘ置キタルニ九月上旬頃ヨリ葉いもち發生シ始メ十月一日其ノ程度ヲ調査セルニ石白二號、新石白、新二本、石白一號、新高、越中坊主一號、新一本ハ多キ方ニテ越前一號、早坊主一號、新大場水ノ錦、改主愛國、米光ハ甚キ方ナリ新愛國、龜ノ尾一號、中生高宮一號ハ其ノ中庸ニ在リ

第 二 藥劑ニ關スル試驗

藥劑ニ關シ實施セル試驗中其ノ成績ノ判明セルモノ特別報告第二十號ニテ既ニ發表セルヲ以テ茲ニ記載ヲ省略ス其ノ試驗事項次ノ如シ

一、砒酸鉛ニ關スル試驗

- 1 果樹ニ對スル藥害試驗
- 2 瓜類ニ對スル藥害試驗
- 3 猿葉虫驅除試驗

二、硫酸にこちんニ關スル試驗

- 1 果樹ニ對スル藥害試験
- 2 木蝨驅除試験
- 3 猿葉虫驅除試験
- 4 黃筋蚤虫驅除試験
- 5 蚜虫驅除試験
- 6 粉介殼虫卵塊驅除試験

三、でりす石鹼ニ關スル試験

- 1 木蝨驅除試験
- 2 猿葉虫驅除試験
- 3 黃筋蚤虫驅除試験
- 4 蚜虫驅除試験
- 5 粉介殼虫卵塊驅除試験

四、松脂合劑ニ關スル試験

- 1 梨樹ニ對スル藥害試験
- 2 木蝨驅除試験
- 3 かし介殼虫驅除試験
- 4 二化螟虫卵驅除試験
- 5 粉介殼虫驅除試験

五、除虫菊ニ關スル試験

- 1 黃筋蚤虫驅除試験

六、ころいごぼるごうニ關スル試験

- 1 胡瓜露菌病豫防試験

七、石油乳劑素ニ關スル試験

- 1 菜類ニ對スル藥害試験

第三 晒粉土壤消毒試験 (新設)

茄子青枯病豫防効果ヲ試験セラルモノニテ連作土壤ニ晒粉ヲ反當三拾貫
 匁ノ割ニ移植二週間前耕起シテ撒布シタル後整地シ移植三日再ビ耕土ヲ
 反轉シ六月十日魚沼巾着種ノ温床苗ヲ移植セリ消毒區ハ罹病株數ハ著シク
 減少セザリシモ發育ハ良好ナリ

調 査 之 部

第一 梨粉介殼虫ニ關スル調査

本場ニ於テ飼育シ形態、生態等ニ關シ微細ナル調査ヲ施行シ約七、八分
 通り終了セリ

第二 梨主要害虫ニ關スル調査

本縣梨主要害虫ノ經過ニ就テハ未ダ調査發表セルモノナク又其ノ種類ニ
 於テモ他府縣ノモノト相異スルモノ甚ナカラザレバ是レ等ヲ調査セントス
 ルモノニテ本年ハ介殼虫中、粉介殼虫以外ノ被害甚大ナル牡蠣介虫、ばら
 どり介殼虫、丸介殼虫三種ノ經過ノ一部ヲ調査セリ

委 托 試 験 之 部

第一 梨害虫驅除試験

其一 姬心喰虫ト袋掛時期トノ關係試験 (繼續第三年)

前年度ト同一ノ設計ニテ袋掛ヲ行フ時期ガ姬心喰虫ノ加害程度ニ及ボス
 影響ヲ試験セルモノナルガ本年ハ一般ニ姬心喰虫ノ被害輕微ニテ喰入歩合
 ハ最モ多キ區ト雖モ收穫果ニ對シ八分餘甚キハ三分餘ニ過ギズ各區ノ間ニ
 大差ナシ

本試験ハ三ケ年繼續施行シ大体其ノ關係ヲ知り得タレバ本年度ニテ打チ
 切りタリ

其二 粉介殼虫驅除試験

イ、無袋藥劑撒布試験 (新設)

袋掛ヲ行ハザレバ粉介殼虫ノ被害ヲ免レ得ザルヲ以テ本試験ハ袋掛ヲ行
 ハズ藥劑撒布ニ依リ幾何程度迄姬心喰虫ノ加害程度ヲ減ジ得ルカヲ知ラン
 爲メ砒酸鉛ヲ五月上旬ヨリ九月上旬ノ間ニ八回撒布セルモノト砒酸鉛ヲ五
 月上旬ヨリ六月上旬迄三回其以後九月上旬迄でりす石鹼ヲ五回撒布セルモ
 ノトノ二種ニ分チ行ヒタレホ一ケ年試験ニテ成績明カナラズ尙繼續試験セ
 ントス

ロ、一回袋掛藥劑撒布試験 (新設)

第二回袋掛ノミヲ行ヒ五月上旬ヨリ六月上旬迄ニ砒酸鉛ヲ三回、七月上
 旬ト八月上旬ノ二回ニ松脂合劑ヲ撒布セルモノ、同一ノ時期ニでりす石鹼
 又ハ硫酸にこちんノミヲ五回撒布セルモノトノ三種ニ分チ施行セシガ擔當

者實施ヲ誤リ第一回袋掛ヲモ行ヒタルト前年度各區ニ於ケル粉介殼虫被害程度ノ調査ナキ爲メ的確ナル成績ヲ得ルニ至ラズ繼續試驗セントス

ハ、二回袋掛藥劑撒布試驗 (繼續第二年)

袋掛ハ二回普通ノ時期(第一回六月中旬第二回七月下旬)ニ行ヒ藥劑ハ松脂合劑、でりす石鹼、硫酸にこちんノ三種トシ五月中下旬第一回幼虫發生期ニ二回七月中下旬第二回幼虫發生期ニ二回撒布ヲ爲シ同一試驗ヲ二ヶ所ニ施行セシガ試驗地ハ本年最初ノモノニテ害虫發生ノ程度不明ノ爲メ藥劑撒布ノ効果ヲ判定シ得ズ尙繼續試驗セントス

其三 梨葉捲虫驅除試驗 (繼續第三年)

葉捲虫防除ノ爲メ砒酸鉛ヲ水一石ニ對シ粉狀ニ封度、生石灰ニ封度ノ割ニ混合セルモノト生石灰ノ代リニかせいん石灰六十匁ヲ混合セルモノトノ二種ニ就キ各六月上旬、同下旬、七月上旬ノ三回ト七月上旬、同下旬、八月上旬ノ三回ニ分チ撒布セリ

供試品種ハ早生赤ヲ使用セルガ七月以後ノ撒布ハ藥害ヲ生ジ全葉ノ約三割ハ損傷セリ右ノ中六月上旬ヨリ七月上旬ノ間ニ行ヒタルモノハ何レモ害虫發生尠ク撒布ノ効果ヲ認メ得タリ

本試驗ハ三ヶ年間繼續施行シ砒酸鉛ノ効果撒布時期、使用濃度等知り得タレバ本年度ニテ打チ切りタリ

第二 葡萄病害豫防試驗 (繼續第二年)

六匁式銅石鹼液、三斗式普通ぼるごう液、醋酸銅液(水一斗醋酸銅五拾匁、膠二匁)ノ房枯病豫防上ノ効果ヲ比較シ併セテ肥料ト發病程度トノ關係ヲ試驗セルモノニシテ藥劑ハ八月十八日、同三十日、九月十二日ノ三回ニ撒布セリ

發病狀況ハ豫防區ハ何レモ無豫防區ニ比シ發病尠ク豫防區ノ内ニテハぼるごう液區最モ多ク醋酸銅液區最モ尠ク肥料トノ關係ニテハ反當米糠三拾匁、骨粉二拾匁ヲ施用セルモノハ輕微ニテ藁灰五拾匁、硫酸加里六匁ヲ施用セルモノハ多シ

本試驗ハ成績ヲ得タレバ本年度ニテ打チ切りタリ

第三 茶葉捲虫驅除試驗 (繼續第三年)

茶葉捲虫(おほあときはまき)ノ驅除法トシテ砒酸鉛ノ效果ヲ試驗スル計

劃ナリシモ害虫發生セザル爲メ施行ヲ見合ハセタリ

第四 胡蘿蔔斑點病豫防試驗 (繼續第二年)

石灰、石灰硫黃合劑(土壤消毒)、晒粉、三斗式普通ぼるごう液、六匁式銅石鹼液ノ豫防効果ヲ比較シ併セテ肥料トノ關係ヲ試驗セントセシガ播種期ニ甚數ク乾燥シ發芽狀況一般ニ不良ナリシガ石灰硫黃合劑一匁一度液ヲ坪當二升ノ割ニ整地前後ニ二回撒布セルモノ最モ悪ルク晒粉反當卅匁ヲ播種廿日前ニ施用セルモノト本場標準肥料ヲ施用セルモノトハ之ニ次ギタリ

第五 ゆりみゝず驅除試驗 (繼續第二年)

秋季石灰窒素ヲ施用シ翌春苗代及本田ニ於ケルゆりみゝずノ活動狀況及肥料分流失ノ程度ヲ試驗セルモノナリ

十一月下旬水田ヲ耕起粉碎シ反當拾五匁ヲ施用セルモノハ五月上旬等量ヲ施用セルモノト同様苗代及本田共ニ害虫ノ活動ナク稻ノ生育状態ニ於テモ大差ナク秋季ノ施用モゆりみゝず驅除ノ効果大ニシテ肥料分モ差シテ流失セザルヲ知リタリ

本試驗ハ本年度ニテ打チ切りタリ

野鼠窒扶斯菌配布之部

本年野鼠窒扶斯菌ヲ配布シ驅除ヲ實施セル面積ノ郡市別次ノ如シ

郡市名	春季 (單位町)			秋季 (單位町)		
	恙有 毒地	農耕地	計	恙有 毒地	農耕地	計
北蒲原郡	325.0	1684.4	1116.9	—	—	—
中蒲原郡	—	220.0	220.0	—	—	—
西蒲原郡	—	372.0	372.0	—	422.2	422.2
南蒲原郡	—	1289.4	1289.4	—	150.3	150.3
北魚沼郡	—	—	—	—	—	—
中魚沼郡	—	260.0	260.0	—	898.0	898.0
南魚沼郡	163.9	570.0	733.9	—	—	—
中頸城郡	—	1070.8	1070.8	—	—	—
東頸城郡	—	—	—	—	—	—
西頸城郡	—	107.4	107.4	—	—	—
三島郡	—	—	—	—	—	—

古	志	郡	—	50.0	50.0	—	20.8	20.8
刈	羽	郡	—	1996.0	1996.0	—	—	—
岩	船	郡	—	—	—	—	—	—
佐	渡	郡	—	—	—	—	—	—
新	湯	市	—	—	—	—	—	—
長	岡	市	—	—	—	—	—	—
高	田	市	—	—	—	—	—	—
合		計	196.4	7620.0	7816.4	—	1491.3	1491.3

農業技術員養成部

農業技術員養成部

第一 農業技術員ノ養成

町村農業技術員養成事業ハ大正八年度ノ創設ニテ爾來專任技師一名ニ養成事務ヲ擔任セシメ事業ノ完備ヲ計レリ

本年度ハ入場志願者五十二名中選抜試験ノ結果別記廿三名ニ入場ヲ許可シ大正十三年四月一日ヨリ大正十四年三月卅一日ニ至ル滿一ケ年養成セリ

修得者一覽表 (大正十四年五月調)

氏名	自費給費	學歷	原籍	修得後ノ狀況
增澤藤一郎	給費	相當認定	古志郡東谷村栃廻	自營
庭野茂市	同	同	中魚沼郡十日町菅沼	三島郡日吉村技術員
小林正義	自費	元乙種農修	刈羽郡北條村門出	本場助手
南波孝次	給費	元乙種農卒	北蒲原郡乙村乙	中蒲原郡十全村技術員
渡邊民二郎	同	同	三島郡日越村堺	本場助手
八木精作	同	同	古志郡北谷村椿澤	自營
伊藤隆吉	自費	中學校卒	北蒲原郡黒川村黒川	同
宮崎幸作	給費	元乙種農卒	佐渡郡新穂村舟下	佐渡郡羽茂村技術員
秋山辰五郎	同	元甲種農卒	東頸城郡安塚村	東頸城郡保倉村技術員
深石吉和	自費	同	中頸城郡水上村西條	北魚沼郡湯谷村農補校
島田俊一	給費	同	中頸城郡高士村稲谷	中頸城郡里五十公野村技術員
關則治	同	同	中頸城郡豐葦村	自營
渡邊彌太郎	同	元乙種農卒	佐渡郡眞野村吉岡	三島郡深才村近藤牧場
吉澤總一	同	元甲種農卒	中蒲原郡庄瀬村庄瀬	中魚沼郡水澤村技術員
銀山卯一郎	同	中學校修	南蒲原郡今町上新田	新潟縣農會
井上幸太郎	同	元甲種農卒	南蒲原郡福島村今井	本場助手
島倉武四郎	同	中學校修	中蒲原郡庄瀬村	中魚沼郡下船渡村技術員
市橋長助	自費	元乙種農卒	佐渡郡加茂村	遊學
渡邊宗治	給費	相當認定	佐渡郡高千村坂尾	自營
增田越夫	自費	元甲種農卒	高田市作事町	同
梅澤述雄	給費	同	中頸城郡菅原村	西蒲原郡岩室村技術員
松本久士	同	同	三島郡宮本村宮本	自營
更科實	同	同	南蒲原郡栗林村	南蒲原郡栗林村技術員

廣州經濟調查會
廣東省政府財政廳
第一號

第一、關於財政部所屬各機關之整理，應由財政部擬具整理辦法，呈請行政院核定後，再行實施。

第二、關於財政部所屬各機關之經費，應由財政部擬具經費預算，呈請行政院核定後，再行撥發。

第三、關於財政部所屬各機關之人事，應由財政部擬具人事辦法，呈請行政院核定後，再行實施。

第四、關於財政部所屬各機關之業務，應由財政部擬具業務辦法，呈請行政院核定後，再行實施。

第五、關於財政部所屬各機關之監督，應由財政部擬具監督辦法，呈請行政院核定後，再行實施。

第六、關於財政部所屬各機關之考核，應由財政部擬具考核辦法，呈請行政院核定後，再行實施。

第七、關於財政部所屬各機關之獎勵，應由財政部擬具獎勵辦法，呈請行政院核定後，再行實施。

第八、關於財政部所屬各機關之懲戒，應由財政部擬具懲戒辦法，呈請行政院核定後，再行實施。

第九、關於財政部所屬各機關之退休，應由財政部擬具退休辦法，呈請行政院核定後，再行實施。

第十、關於財政部所屬各機關之撫卹，應由財政部擬具撫卹辦法，呈請行政院核定後，再行實施。

庶務部

第三號

第一、關於庶務部所屬各機關之整理，應由庶務部擬具整理辦法，呈請行政院核定後，再行實施。

第二、關於庶務部所屬各機關之經費，應由庶務部擬具經費預算，呈請行政院核定後，再行撥發。

第三、關於庶務部所屬各機關之人事，應由庶務部擬具人事辦法，呈請行政院核定後，再行實施。

第四、關於庶務部所屬各機關之業務，應由庶務部擬具業務辦法，呈請行政院核定後，再行實施。

第五、關於庶務部所屬各機關之監督，應由庶務部擬具監督辦法，呈請行政院核定後，再行實施。

第六、關於庶務部所屬各機關之考核，應由庶務部擬具考核辦法，呈請行政院核定後，再行實施。

第七、關於庶務部所屬各機關之獎勵，應由庶務部擬具獎勵辦法，呈請行政院核定後，再行實施。

第八、關於庶務部所屬各機關之懲戒，應由庶務部擬具懲戒辦法，呈請行政院核定後，再行實施。

第九、關於庶務部所屬各機關之退休，應由庶務部擬具退休辦法，呈請行政院核定後，再行實施。

第十、關於庶務部所屬各機關之撫卹，應由庶務部擬具撫卹辦法，呈請行政院核定後，再行實施。

庶務部

第一 出張ニ關スル事項

用務	回数	日數	用務	回数	日數
依託試驗打合	18	45	農事調査	50	150
農事及肥料講話	50	114	施肥標準調査	16	112
農具及乾燥機調査	20	38	野鼠驅除病虫害指導監督	26	47
馬耕競犁會審査	3	8	採種園指導監督	40	164
事務打合	46	67			
共進會其他審査	25	52	計	294	797

第二 印刷發刊ニ關スル事項

種別	部數	種別	部數
試驗場一覽表	3,000 枚	和梨ノ肥料	2,000 枚
病虫害試驗成績	400 部	和梨栽培年中行事	2,000 枚
水稻獎勵原種特性表	2,000 枚	主要藥劑ノ調製	2,000 枚
十二年度事業報告	300 部	撒布曆	2,000 枚
藥劑ニ關スル試驗成績	300 部	米採種園耕程要録	1,000 部

第三 文書取扱件數

本年度ニ於テ取扱セシ文書六千三百三十八件ニシテ内譯左ノ如シ

種別	收	受	發	送	計
本場		1,913		1,584	3,497
園藝部		1,334		572	1,956
佐渡分場		510		175	685

第四 參觀人員

本年度ニ於ケル參觀人員次ノ如シ

種別	參觀人員	參觀人員	參觀人員
本場			5,954
園藝部			2,722
佐渡分場			3,501

第一編

第一章 總論

第一節 總論
一、本編之目的
二、本編之範圍
三、本編之體裁

第二章 沿革

第一節 沿革
一、本編之沿革
二、本編之沿革

第三章 現狀

第一節 現狀
一、本編之現狀
二、本編之現狀

第四章 展望

第一節 展望
一、本編之展望
二、本編之展望

佐渡分場

水 田 之 部

第 一 豐 凶 考 照 試 驗 (繼續第二年)

一、供 試 品 種

早稻	越 前	龜ノ尾	入 八 日
中稻	高田早生	大 場	中 生 高 宮
晚稻	毛 石 白	石 白	愛 國

一、成 績

試驗年度	越 前	龜ノ尾	入 八 日	高 田 早 生	大 場	中 生 高 宮	毛 石 白	石 白	愛 國
大 正 十 三 年	2.486	2.737	2.532	2.425	2.477	2.232	2.121	2.326	2.617

一、早、中、晚稻各三種平均收量成績

早稻三種平均	二、五八五
中稻三種平均	二、三七八
晚稻三種平均	二、三五五

備考 八月下旬ノ大暴風雨ハ早・晚稻ニハ大ナル被害ヲ認メザリシモ中稻ハ之ガ爲メ被害アリ。加フルニ病虫ノ被害アリ。尙九月中下旬ニ於ケル暴風雨ハ更ニ晚稻ニ大被害ヲ認メ其結果收量ニ於テハ早稻・中稻・晚稻ノ順位ヲ示セリ

第 二 越 前 系 統 試 驗 (繼續第二年)

一、本試験ハ當地方ニ於テ古クヨリ栽培シ現在數十種ノ變種ヲ生ズルニ至レル越前種ニ付之ガ系統ノ調査ヲ成シテ優良ナルモノヲ見出シ收量及品質等ニ付テ改良ヲ行ハントスルニ在リ。供試品種ハ十五系統ヲ以テセリ

一、成 績

系統番號	反當收量	系統番號	反當收量	系統番號	反當收量
一 號	2.312	六 號	2.158	一 一 號	1.828
二 號	2.141	七 號	2.196	一 二 號	2.111
三 號	2.174	八 號	2.203	一 三 號	1.845
四 號	2.366	九 號	2.399	一 四 號	1.471
五 號	1.908	一〇 號	1.879	一 五 號	1.845

一、成 績 概 要

越前九號收量最モ大ニシテ一四號最モ少ナリ

備考 本年度ハ苗代跡地ニ栽培セル爲メ出来過ぎ且ツ浮塵子ノ被害大ナリシ爲メ收量例年ヨリ減少セリ

第三 品種豫備試験 (新設)

一、本試験ハ各地ヨリ其土地ニ於ケル優良ナル品種ヲ集メ其優劣ヲ比較調査セントスルニ在リ

一、成績

品 種 名	反 當 收 量	品 種 名	反 當 收 量
陸 羽 二 〇 號	石 3.380	豐 國	石 2.351
銀 坊 主	3.331	保 村	2.067
白 藤	2.597	愛 國 二 號	2.362

第四 練粕大豆粕肥効試験 (新設)

一、本試験ハ練粕及大豆粕ノ肥効ヲ比較シ更ニ經濟的ニ如何ナル優劣アルカヲ知ラントスルニ在リ、越前ヲ供試品種トシ左記割合ノ肥料ニ依リテ試験セリ

肥料

區 名	肥料名	練 粕	大豆粕	強 過 石	木 灰	堆 肥	紫 雲 英
一	區	20	—	3	20	—	—
二	區	—	25	6	20	—	—
三	區	10	—	4	10	200	—
四	區	—	15	5	10	200	—
五	區	10	—	6	10	—	200
六	區	—	15	7	10	—	200

一、成績

區 名	反 當 支 米 收 量	同 上 單 價	同 上 價 格
一 區	石 2,521	円 35.180	円 88,689
二 區	2,350	35.180	82,884
三 區	2,245	35.180	78,979
四 區	2,526	35.180	88,865
五 區	2,025	35.180	71,240
六 區	3,784	35.180	133,121

肥料ノ價格次ノ如シ

肥料	區 名	(單 價)	一 區	二 區	三 區	四 區	五 區	六 區
練 粕		円	8,300	16,600	—	8,300	—	8,300
大豆粕(バラ)		—	—	11,250	—	6,750	—	6,750
強 過 石		—	0,750	1,500	1,000	1,250	1,500	1,750
木 灰		—	2,600	2,600	1,300	1,300	1,300	1,300
堆 肥		—	—	—	5,000	5,000	—	—
紫 雲 英		—	—	—	—	—	5,000	5,000
合 計		—	19,950	15,350	15,600	14,300	16,100	14,800

一、成績概要

大豆粕ヲ施用スル時ハ練粕ニ比シ概シテ收量多ク又經濟的ナリ

第五 耕鋤深淺對施肥量試験 (繼續第二年)

一、本試験ハ耕鋤ノ深淺ト施肥量ノ多少トニ依リテ米ノ收量ニ及ボス影響ヲ調査セントスルニ在リ

供試品種 越前 改良愛國

一、成績

耕鋤ノ深淺	施肥量	越 前	改良愛國	耕鋤ノ深淺	施肥量	越 前	改良愛國
四 寸 耕	標準量	石 2,625	石 3,132	六 寸 耕	標準量	石 2,326	石 3,085
同	二割増	2,386	3,005	同	二割増	2,305	3,308
同	四割増	2,156	3,054	同	四割増	2,273	3,298
同	六割増	1,846	2,725	同	六割増	2,416	3,420
五 寸 耕	標準量	2,646	2,939	七 寸 耕	標準量	2,436	3,558
同	二割増	2,419	3,408	同	二割増	2,100	3,108
同	四割増	2,128	3,298	同	四割増	2,202	3,147
同	六割増	2,456	3,147	同	六割増	2,285	3,444

一、成績概要

越前ニ在リテハ五寸耕標準肥料區收量最モ多ク改良愛國ニ在リテハ七寸耕標準肥料區收量最モ多シ

第六 品種對施肥量試験 (繼續第二年)

一、本試験ハ品種ニ依リ施肥量ガ收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ知ラントスルニ在リ、供試品種ハ當地方ニ最モ多キ越前、龜ノ尾、新大場、改良

愛國ノ四品種トス、而シテ肥料ハ當場ニ於ケル標準肥料ヲ標準トシ標準量、二割増、四割増、六割増ノ四區別ニ試験セリ

一、成績

品種名	試験別	標準量	二割増	四割増	六割増
越前		2.235	2.249	2.320	2.674
龜ノ尾		2.342	2.566	2.629	2.426
新大場		3.425	3.148	3.238	2.406
改良愛國		2.208	3.173	3.410	3.088

一、成績概要

標準肥料トシテハ新大場收量最モ大ニシテ改良愛國最モ少ナリ
 二割増四割増肥料トシテハ改良愛國收量最モ大ニシテ越前最モ少ナリ
 六割増肥料トシテハ改良愛國收量最モ大ニシテ龜ノ尾新大場最モ少ナリ

第七 春秋耕起比較試験 (繼續第二年)

一、本試験ハ耕起ノ時期並ニ方法ニ依リ收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ知ラントスルニ在リ、試験區別ハ春耕、秋耕ニ別テ更ニ各四寸手打、四寸畦打、六寸手打、六寸畦打ノ八區ニ別テ越前ヲ供試品種トセリ

一、成績

耕起時期	耕起方法	反當收量	耕起時期	耕起方法	反當收量
春	四寸手打	2.344	秋	四寸手打	2.452
同	四寸畦打	2.530	同	四寸畦打	2.456
同	六寸手打	2.571	同	六寸手打	2.430
同	六寸畦打	2.252	同	六寸畦打	2.614

一、成績概要

本年度成績ニ依レバ秋耕六寸畦打收量最モ大ナリ
 春耕、秋耕ヲ比較スレバ秋耕ノ收量大ナリ
 耕起方法ヲ比較スレバ春耕ニ在リテハ手打、秋耕ニ在リテハ畦打ノ收量大ナリ
 本年度ハ前年度成績ト幾分異ナルヲ以テ尙繼續スルノ必要アリ

第八 泥負虫驅除試験 (新設)

一、本試験ハ泥負虫ヲ驅除スルニ當リ最適ナル方法ヲ發見セントスルニ在リ、越前ヲ供試品種トシ當場一般ノ耕種方法ニ依リ左記方法ニテ試験セリ

驅除方法

區名	驅除方法	回数
一區	驅除セザルモノ	—
二區	藁ニテ拂ヒ落ス	三回
三區	捕虫籠ニテ拂フ	二回
四區	石油滴下シ(反當二升)藁ニテ拂ヒ落ス	一回
五區	石油滴下シ(反當二升)捕虫籠ニテ拂フ	一回
六區	同上	二回
七區	除虫菊浸出石油ヲ滴下シ(反當二升)藁ニテ拂ヒ落ス	一回
八區	粉末テリス石鹼ヲ溶解シ(一斤チー石ノ水ニ)撒布ス	一回
九區	砒酸鉛加用銅石鹼液撒布(液一斗・砒三〇匁)	一回
一〇區	石油乳劑ヲ撒布ス	一回
一一區	米糠・石油混合物ヲ撒布シ藁ニテ拂フ(反當米糠二斗・石油一升)	一回
一二區	同 (反當米糠二斗・石油二升)	一回

一、成績

區名	反當收量	驅除効果ノ程度	區名	反當收量	驅除効果ノ程度
一區	2.090	—	七區	2.313	中
二區	2.426	中	八區	2.860	稍大
三區	2.365	中	九區	1.905	少
四區	2.486	中	一〇區	2.339	少
五區	2.597	中	一一區	2.028	大
六區	2.304	大	一二區	2.284	大

一、成績概要

本年度ニ於テハ試験田ニ於テ泥負虫ノ發生少キ爲メ充分ノ試験ヲナス能ハズ又各區ニ於ケル土質ニモ多少差異無キニ非ザルヲ以テ單ニ收量ノ多少ノミヲ以テ適當ナル驅除法ト決定スルヲ得ズ寧ロ驅除當時ニ於ケル驅除効果ノ如何ニ依ルヲ至當ナリト信ズ、本年度試験ノ結果ニ依レバ一、一二、六區成績最モ良好ニシテ四、五區之ニ次

ギ藥劑驅除ハ餘リ効果アルヲ認メズ只粉末テリス石鹼施用區ニ於テ
相當ノ効果ヲ認メタルノミナリ

第九 二毛作跡地影響試験 (繼續第二年)

一、本試験ハ二毛作トシテザードウキツケン、紫雲英、大麥ヲ栽培セル場
合其跡作タル水稻各品種ノ收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ知ラントス
ルニ在リ、供試品種ハ當地方ニテ栽培セラル、三十種ニ就テ試験セリ

一、成績

二毛別 品種名	標準區	ザードワ 井ツケン 採種跡	ザード ウ井ツ ケン跡	紫雲英跡	紫雲英 採種跡	紫雲英 秋耕跡	紫雲英秋 耕採種跡	大麥跡
越前	3.508	2.385	2.871	3.504	2.790	3.504	3.230	3.251
八日	3.370	3.265	2.526	3.522	2.939	3.106	2.784	3.067
龜ノ尾	3.179	2.639	3.395	3.243	2.587	3.265	3.648	1.554
和十郎	2.969	2.558	3.259	2.645	2.716	2.937	2.699	2.565
小田珍光	3.251	2.870	3.034	3.282	2.973	3.682	2.890	2.952
赤見出	3.202	2.649	3.482	3.280	3.254	3.339	2.108	2.673
大場	3.597	2.812	3.283	3.694	3.139	3.940	3.320	2.784
新大場	3.605	3.045	3.029	3.034	3.827	2.285	3.671	3.122
小坊主	4.291	2.724	2.641	3.395	3.128	3.472	2.631	3.215
早坊主	3.402	2.815	2.721	2.996	3.442	3.506	2.641	3.037
中生高宮	2.817	2.363	2.631	2.492	3.149	2.781	2.600	2.492
數島	2.962	2.496	3.034	2.238	3.325	3.209	2.831	2.890
穗白	2.637	1.869	1.923	2.460	2.492	2.348	1.824	2.348
新高	3.323	3.271	3.020	3.540	3.142	3.179	3.324	2.998
新二本	3.139	3.027	3.258	3.334	3.446	3.306	3.324	3.106
毛石白	3.339	2.684	3.183	3.179	3.395	3.028	3.251	2.794
神種	3.594	2.647	3.037	3.283	3.444	3.209	3.201	3.242
米光	3.128	2.670	2.485	3.171	3.034	3.106	2.714	2.528
水ノ錦	3.282	2.971	3.118	2.887	3.488	3.122	3.602	3.442
改良愛國	3.690	2.963	3.122	3.426	3.210	3.423	3.202	3.602
新愛國	3.106	2.973	2.745	3.209	3.106	3.120	3.027	3.426
愛國	3.216	2.694	2.928	2.781	3.354	2.934	2.923	3.164
同四號	2.873	2.594	3.076	2.940	2.923	2.877	2.645	2.853
同八號	3.522	2.380	3.382	3.362	3.335	2.699	3.468	3.282
自然雜種	3.162	2.607	2.276	3.122	2.649	3.116	2.733	2.594
同四四號								
同三五號	3.173	2.714	2.996	3.434	3.322	2.881	3.432	2.881

同三二四號	3.037	2.833	2.643	3.202	2.864	2.873	2.561	2.544
石白一號	3.114	2.610	2.574	3.407	2.890	3.112	2.841	2.774
豐後糯	2.088	1.850	2.767	2.319	2.232	2.202	2.242	2.443
新發田糯	2.955	2.126	2.475	2.284	1.885	1.972	2.287	2.101

第一〇 除草回数試験 (繼續第二年)

一、本試験ハ勞カトノ關係上除草回数ガ收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ
試験セントスルニ在リ

供試品種 越前

一、成績

試験別	反當收量	試験別	反當收量
除草四回中耕一回	2.904	除草一回中耕一回	1.902
同三回同	2.562	無除草區	1.511
同二回同	2.399		

一、成績概要

除草回数少キニ從ヒ收量ヲ減ズ、サレド本試験ハ除草ノ時期等ニ付
テモ大ナル差違アリト信ズ、故ニ尙繼續試験ノ必要ヲ認ム

第一一 直播勞力試験 (新設)

一、本試験ハ直播ヲ成シ之ニ要スル勞力ノ關係及收量ノ多少等ヲ調査セン
トスルニ在リ

供試品種 改良愛國
播種月日 五月十五日

一、成績

反當收量 二石五斗七升七合

勞力調査ノ結果左ノ如シ

作業名	反當日數	備考	作業名	反當日數	備考
播種	2.793	一日八時間勞働トス	除草(三回)	8.333	
除草(一回)	17.917		同(四回)	5.000	
補植	5.000		同(五回)	3.333	
除草(二回)	5.000		合計	47.619	
中耕	0.243				

第一二 水田二毛作大麥栽培試驗 (新設)

一、本試驗ハ水田裏作トシテ大麥ヲ栽培シ之ガ栽培法ヲ研究シ以テ土地利用ヲ獎勵普及スルノ基礎ヲ得ントスルニ在リ

供試品種 細川錦

一、成績

反當收量 七斗一升九合

第一三 水田二毛作紫雲英栽培試驗 (新設)

一、本試驗ハ紫雲英ノ栽培法ヲ研究シ之ガ獎勵普及ノ基礎ヲ得ントスルニ在リ

播種月日 大正十二年八月二十一日

一、成績

試驗別	反當生草量	反當採種量
紫雲英普通區	511.333 (採種當時生草量)	—
同 採種區	237.333	0.733
同 秋耕區	206.500 (採種當時生草量)	—
同 秋耕採種區	159.333	1.167

畑 之 部

第一 麥品種比較試驗 (新設)

一、本試驗ハ本縣獎勵品種及其他優良ト認ムル品種ヲ試作シ當地方ノ如キ風土ニ如何ナル品種ガ最モ適スルカラ知ラントスルニ在リ

一、成績

品種名	反當收量	品種名	反當收量
大麥 矢羽豆	1.521	大麥 穗揃	1.607
同 二本三	1.286	同 片面	2.100
同 白六角(西三川産)	1.779	小麥 加茂村在來	1.586
同 今朝白	1.329	同 西三川在來	1.350
同 六角(西蒲原産)	1.543	同 赤皮赤	1.607
同 彈正	1.950	同 紫小麥	1.286
裸麥 裸北海道	1.307	同 兵隊	2.229

第二 麥播種法試驗 (新設)

一、本試驗ハ畦巾及播巾ニ依リ收量ニ如何ナル影響アリヤヲ知ラントスルニ在リ

供試品種 長岡

一、成績

試驗區	反當收量	試驗區	反當收量
畦巾 2.0 播巾 0.7	1.843	畦巾 3.5 播巾 2.0	1.971
同 2.5 同 1.0	1.928	同 4.0 同 2.5	2.143
同 3.0 同 1.5	1.971	同 4.5 同 3.0	2.300

第三 麥播種期試驗 (新設)

一、本試驗ハ麥ノ播種期ガ收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ知ラントスルニ在リ

供試品種 長岡

一、成績

播種月日	反當收量	播種月日	反當收量
九月二十日	1.886	十一月二十日	0.814
九月三十日	1.950	三月五日	0.714
十月十日	1.521	三月十日	0.857
十月二十日	1.200	三月十五日	0.714
十月三十日	1.050	三月二十日	0.500
十一月十日	0.643		

一、成績概要

九月三十日蒔收量最モ多ク九月二十日十月十日ノ順位ヲ示シ十一月中ニ播種セルモノハ收量最モ少ナリ

春播ニ在リテハ三月十日蒔ノモノ收量最モ大ナリ

第四 大小豆品種比較試驗 (新設)

一、本試驗ハ大小豆ノ各品種中當地方ノ如キ風土ニ在リテハ如何ナル品種ガ最モ適スルカラ知ラントスルニ在リ

一、成績

大豆ノ部

品 種 名	反 當 收 量	品 種 名	反 當 收 量
黒 目	1.350	水 滯	0.868
四 石 ビツクリ	0.819	生 類	0.963
早 生 青 魁	1.213	青 キ ナ コ	1.051
晩 生 大 觀 月 枝 豆	1.467	赤 莢	1.665
枝 莢 豆 早 生 黒 魁	0.775	玉 造	0.881
一 反 三 石	0.830	川 越	1.446
岩 船 漣 谷	1.030	濃 青 大 豆	1.476
刈 羽 漣 谷	0.783	晩 大 豆	1.054

備考 本年度ハ混種多カリシ爲メ残存株數ニ依リテ收量調査ナセリ

小豆ノ部

品 種 名	反 當 收 量	品 種 名	反 當 收 量
不 知 霜	1.080	室 蘭	1.208
白 色 小 豆	1.384	達 摩	1.221
庄 内	1.479	大 納 言	1.816

小豆ニ在リテハ大納言收量最モ多ク庄内之ニ次ク

第五 蕎麥品種比較試験 (新設)

一、本試験ハ本縣下ニ於テ最モ適當ナル品種ヲ知ラントスルニ在リテ左記品種ヲ蒐集シ試験セリ

一、成 績

系 統 番 號	反 當 收 量	製 粉 歩 合	反 當 粉 量
一 號	0.6257	0.905	0.5663
二 號	1.5699	0.800	1.2559
三 號	0.6564	0.915	0.6006
四 號	1.1785	0.745	0.8780
五 號	0.6228	1.015	0.6321
六 號	0.8850	0.940	0.8319
七 號	1.3393	1.000	1.3393
八 號	1.3010	0.950	1.2360
九 號	1.2528	0.915	1.1463
一〇 號	0.9193	0.965	0.8871

備考 本年度ハ早魁ノ爲メ發芽ニ二十日餘ヲ要シ八月下旬發芽シタル爲メ一般ニ收量ノ減少ヲ見タリ

一、成 績 概 要

收量ニ於テハ二號最モ多キモ製粉歩合ニ於テハ五號最大ニシテ反當粉量ニ在リテハ七號最モ多シ

本試験ハ尙繼續スルノ必要アリト信ズ

第六 ザードウキツケン播種法試験 (新設)

一、本試験ハザードウキツケンノ播種法ニ依リ收量ニ如何ナル差違アリキヲ知ラントスルニ在リ、左記方法ニ依リテ試験セリ

- 畦巾三尺條播 畦巾二尺株間一尺點播
- 畦巾三尺二條播 畦巾三尺二條、一尺點播

一、成 績

大正十二年秋播

區 名	方 法	採種期ニ於ケル 生 草 量	反當採種量
一	畦巾三尺條播	282.843	75.71
二	畦巾二尺株間一尺點播	299.985	77.14
三	畦巾三尺二條播	345.697	94.28
四	畦巾三尺二條、一尺點播	302.842	87.14
五	同一區(但シ春期支柱ヲ與フ)	379.981	102.28
六	同二區(同)	379.981	105.71
七	同三區(同)	363.982	99.10
八	同四區(同)	344.554	107.14

一、成 績 概 要

生草收量ハ條播點播ニ勝リ採種量ニアリテハ之レニ反ス尙條播點播共ニ支柱ヲ行フ時ハ効果頗ル多キヲ認ム

大正十三年春播

區 名	方 法	採種期ニ於ケル 反當生草量	反當採種量
一	同 秋 播 一 區	125.708	43.141
二	同 同 二 區	133.779	58.569
三	同 同 三 區	161.421	61.568
四	同 同 四 區	157.135	52.426

第七 甘藷品種比較試験 (新設)

一、本試験ハ當地方ノ如キ風土ニ如何ナル品種最モ適當ナルカラ知ラントスルニ在リ左記品種ニ付試験セリ

一、成績

品 種 名	反 當 收 量	品 種 名	反 當 收 量
金 時	552.490	琉 球	436.320
紅 赤	514.858	四 十 日	754.834
川 越	310.878	花 露	837.734
下 總 白	447.228	紫 露	621.813
源 氏	538.855		

備考 畦巾二尺 株間一尺五寸 釣針柱

第八 馬鈴薯品種比較試験 (新設)

一、本試験ハ當地方ノ如キ風土ニ如何ナル品種最モ適スルカラ知ラントスルニ在リ左記品種ニ付試験セリ

畦巾二尺 株間一尺

一、成績

品 種 名	反 當 收 量	品 種 名	反 當 收 量
ア ー リ ー ロ ー ズ	534.000	壽 仙 圓 ポ テ ト ー	383.000
ゴ ー ル デ ン ク 井 ン	635.500	メ ー ク 井 ン	558.000
ス ノ ー フ レ ー グ	352.500	ア メ リ カ ン ウ ォ ン ダ ー	392.000
ホ ロ イ ト シ ナ ー	354.000		

第九 里芋品種比較試験 (新設)

一、本試験ハ當地方ノ如キ風土ニ於テ如何ナル品種最モ適スルカラ知ラントスルニ在リ左記品種ニ付試験セリ

畦巾二尺 株間一尺

一、成績

品 種 名	反 當 收 量	品 種 名	反 當 收 量
里 芋	760.800	八 ッ 頭	594.176
唐 芋	350.030		

第一〇 茄子品種比較試験 (新設)

一、本試験ハ當地方ノ如キ風土ニ於テ如何ナル品種最モ適當ナリヤヲ知ラントスルニ在リ

畦巾二尺五寸 株間一尺五寸

一、成績

品 種 名	反 當 收 量	品 種 名	反 當 收 量
中 生 山 茄 子	805.400	蔓 細 千 成	824.600
巾 着	519.000	眞 黒(早生)	998.40

第一一 菜菔播種期試験 (新設)

一、本試験ハ當地方ノ如キ風土ニ在リテ菜菔ノ播種期ハ害虫ノ被害及收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ知リ以テ最モ適當ナル播種期ヲ知ラントスルニ在リ

供試品種ハ宮重、津島屋ノ二品種ヲ以テシ七月十二日、七月二十三日、八月三日ノ三期ニ分チテ試験セリ

一、成績

播 種 期 日	宮 重 收 量	同 上 虫 害 程 度	津 島 屋 收 量	同 上 虫 害 程 度
七 月 十 二 日	1,783.500	大	1,432.500	大
七 月 二 十 三 日	1,870.500	中	1,305.000	中
八 月 三 日	1,266.000	小	700.500	小

一、成績概要

宮重ニ在リテハ七月二十三日蒔最モ收量大ニシテ七月十二日蒔ノモノ虫害最モ大ナリ

津島屋ニ在リテハ七月十二日蒔ノモノ收量大ニシテ七月十二日蒔ノモノ虫害最モ大ナリ

第一二 秋播甘藍品種比較試験 (新設)

一、本試験ハ當地方ノ如キ風土ニ於テ如何ナル品種最モ適當ナルヤヲ知ラントスルニ在リ、左記品種ニ付試験セリ

畦巾二尺 株間一尺五寸

一、成績

品 種 名	反當收量	品 種 名	反當收量
コペンハーゲンマーケツト	480,900	サクセツション	277,600
オールヘツト	324,900	アーヴィーサンマー	163,400

第一三 白菜直播移植比較試験 (新設)

一、本試験ハ白菜ノ播種期ニ當リ早魃並ニ害虫ノ被害大ナルモノアレバ之ガ直播移植ノ比較試験ヲ成シ收量ニ如何ナル差異アリヤヲ知ラントスルニ在リ

供試品種 愛知白菜

一、成績

試 験 区	反 當 收 量	結 球 歩 合
直 播	1,408,400	0.594
移 植	745,000	0.242

第一四 体菜直播移植比較試験 (新設)

一、供試品種 白莖体菜

一、成績

直 播(反當)	470,352
移 植(同)	313,858

第一五 長岡菜直播移植比較試験 (新設)

一、成績

直 播(反當)	603,000
移 植(同)	412,250

大正十四年十一月廿五日印刷

大正十四年十一月三十日發行

新潟縣農事試験場

長岡市吳服町

印刷人 太田仁一郎

長岡市荒屋敷町

印刷所 越佐新報社

14-21

28/1

終